

昭和49年、前橋市教育委員会社会教育課に文化財保護係が新設され、早くも 13年が経過いたしました。今年度におきましても、市民各位と関連市長部局等 の御理解と御協力により、各事業が円滑に実施することができました。

とりわけ、昭和52年に着手した妙安寺の文化財調査が、前橋市文化財調査報告書、『妙安寺 一谷山記録・寺宝』として刊行できましたことは、調査委員の先生方のご苦労の成果であり、特筆すべきことです。また、この発刊とタイアップして開催された文化財普及講座には、多くの市民の方々の参加を得ることができ、文化財に対する静かな関心の高まりを実感いたしました。

また、史跡整備事業においては、3ヶ年の歳月と巨費を投じた総社神社本殿 の半解体修理が終了し、桃山様式の美しい姿が蘇りました。

総合調査事業では、妙安寺文化財調査に加え、民俗調査を実施いたしました。 今年度は、南橘地区の聞き取り調査を行い、数年後の報告書刊行にむけて着々 と準備を進めております。

埋蔵文化財の発掘調査事業においては、民間開発に先立つ調査依頼が相次ぎ、依頼総数は67件にも及びました。この67件のうち16件は、本格的な発掘調査を 実施いたしました。今後もこの忙しい状況が続くものと思います。尚、この状況に対応するため、昭和62年4月には旧桂萱公民館跡地に文化財保護室を新設し、発掘調査の拠点としていく所存です。

最後に、本市教育委員会の文化財調査員として長年に渡り御苦労していただいた山田武麿先生が急逝されたことは誠に残念なことでした。ここに謹んで先生の御冥福をお祈りするとともに、本文化財調査報告書第17集が今後の文化財保護行政への一助となることを期待する次第です。

昭和62年3月

前橋市教育委員会 教育長 岡本信正

目 次

	序	11	村東遺跡 (委託調査)1	. 1
	例言	12	木の宮遺跡1	8
	緒言1	13	鎮守廻り遺跡1	.8
I	昭和61年度事業概要2	14	神明東遺跡1	
1	保護・管理運営2	15	屋敷遺跡1	
2	整備事業 3	16	勝呂遺跡2)(
3	総合調査事業3	17	西堀遺跡2)(
4	普及事業4	V	昭和61年度事業の成果から2	!]
II	昭和61年度文化財調査5	1	妙安寺文化財調査のまとめ2	!]
1	源英寺文化財調査5	2	前橋の小さな旅 総社地区 歴史散歩道整備2	16
2	東照宮文化財調査6	3	総合調査事業2	<u>'</u> ,∠
III	昭和61年度新指定物件の紹介7	4	普及講座2	:(
1	前橋藩主松平家奉納能装束一式7			
2	前橋藩主松平家軍配9		指定文化財一覧2	3,
3	前橋藩主松平家陣羽織9		あとがき3	2
IV	昭和61年度発掘調査事業の概要10		山田武麿先生を偲んで3	į
	前橋市内発掘調査地分布図10		名簿3	;
	昭和61年度発掘調査一覧11			
1	柳久保遺跡群12			
2	柳久保遺跡群 (委託調査)13			
3	元総社明神遺跡 V · · · · · · · 13			
4	小神明遺跡群V14		例言	
5	芳賀団地遺跡 (報告書作成事業)14		. 本書は、前橋市教育委員会社会教育課文 化財保護係で行われた昭和61年度の諸事業	
6	寺田遺跡 (委託調査)15		16別休護旅で1777に2階和07年度の超事業 の概要をまとめたものである。	
7	前山遺跡 (委託調査)15	_	. 編集の方針として、各種の調査事業文化	
8	小稲荷遺跡 (委託調査)16		財普及事業や他の事業の成果を広く市民の 方々に還元できるよう、なるべくわかりや	
9	生川遺跡 (委託調査)16		すく視覚に訴える表現を心がけた。	
10	天神遺跡 (委託調査)17	3	. 本書の企画編集は遠藤和夫が担当した。	

緒言

教育委員会内に設置されている文化財保護係の仕事は、文化財の保護と管理、 史跡等の整備、市民への普及活動、各種文化財の総合調査、埋蔵文化財の発掘 調査等広範囲の事業を全て網羅せねばならぬ責務を負っているのである。しか し、例年その仕事の大半は、埋蔵文化財発掘調査事業にさかれてしまい、発掘 調査の合間をぬうようにして各種文化財の調査、普及活動等が行われており、 仕事の重要さを認識していながら、市民の文化財に対する多様なニーズに十分 応えられないというジレンマに陥っていたのが現状であった。

昭和61年度の文化財保護行政は、従来の埋蔵文化財調査中心の仕事内容を反省し、幅広く市民のニーズに応えるべく体制を整備していくことに主眼を置いた。埋蔵文化財調査担当の職員の他に、管理運営、史跡等の整備、保護普及、文化財総合調査の分野にそれぞれ担当職員を配し、即応体制をとり、それなりの成果を上げることができた。また、埋蔵文化財関係では、近年急増の傾向にある民間開発の調査に即応するため試掘調査担当を置き、60件を超える事前調査を行った。発掘調査は先年度の9件から15件に増え、総調査面積も約7万㎡に達している。整備事業では、総社地区歴史散歩道の策定を行い、普及では30件を超す史跡文化財めぐりの要望に対応した。文化財総合調査においては、民具から古銭、甲冑にいたるまでおよそ60件の調査が行われ、東照宮の能装束一式、永明小の前橋藩ゆかりの甲冑等埋もれた文化財を多数掘り起こすことができ、多大な成果を上げることができた。

本調査報告書は、昭和61年度の前橋市の文化財保護行政の概要を記したものである。本市の文化財保護行政を理解していただき、且つ資料として活用していただければ幸いです。

尚、大変残念なことではありますが、永年本市の文化財調査委員をしていた だきました山田武麿先生が10月29日に急逝されました。妙安寺文化財調査等で 多大な功績を本市に残していただいたことに対し感謝申し上げる次第です。

> 社会教育課 文化財保護係 係 長 福 田 紀 雄

I 昭和61年度事業概要

1. 保護・管理運営

豊かな歴史的風土に根ざす本市は原始 古代から中・近世に到るさまざまな文化 財に恵まれています。この文化財に対す る市民の興味・関心は一段と高まり、歴 史を通して地域を再発見しようとする気 運が盛りあがつています。文化財の保護 管理はこうした状況を踏まえ展開してき ました。

(1) 国有文化財管理

国有文化財である下記古墳について管理を実施しています。

名 称	(天川)二子山古墳	(総社)二子山古墳			
指定種別	国指定史跡	国指定史跡			
指定年月E	昭和2年6月14日	昭和2年4月6日			
面 穆	7,315m²	5,166m²			
監視人	御供徳雄	大谷好夫			
清掃	市連合青年団	総社史跡愛存会			

(2) 市指定文化財管理

指定文化財 133件のうち、市指定76件

について管理を実施しています。

区分 種別	重文 化 要財	史跡	天記 念 然物	無文 化 形財	民文俗財	旧美 重新 要品	습計
国指定	3	11	1	0	0	6	21
県指定	31	4	0	1	0	0	36
市指定	51	15	0	7	3	0	76
合 計	85	30	1	8	3	6	133

(3) 史跡等の清掃・除草及び管理

市内の文化財のうち、特に草刈りを要する古墳等について清掃等を実施しています。

番号	物件名	区分	所 在 地	面積
1	亀塚山古墳	市指定史跡	₩至町-丁目	2,484 m²
2	金冠塚古墳	史 跡	山王町一丁目	2,491 m²
3	今井神社古墳	市指定史跡	今 井 町	3,400 m²
4	車橋御門跡	市指定史跡	大手町二丁目	400 m²
5	酒井氏歴代墓地	市指定市跡	紅雲町二丁目	3,800 m²
6	天神山古墳	県指定史跡	広瀬町二丁目	730 m²
7	八幡山古墳	国指定史跡	朝倉町四丁目	10,649 m²
8	前二子古墳	国指定史跡	西大室町	10,956 m²
9	中二子古墳	国指定史跡	東大室町	10,280m²
10	後二子古墳	国指定史跡	西大室町	12,283 m²
11	蛇穴山古墳	国指定史跡	総社町総社	1,793 m²
12	宝塔山古墳	国指定史跡	総社町総社	2,916m²
13	女 堀	国指定史跡	東大室町・ 飯土井町	4,822 m²

(4) 文化財パトロール

市内を五地区に 分け、それぞれ文 化財保護指導員を 委嘱し指定・未指 定文化財のバトロールを実施しています。

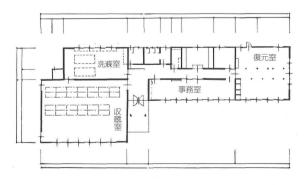
地区名	指導員名				
中央	一二三九兵衛				
総社・元総社	新木 一郎治				
広瀬・山王	関根辰雄				
芳賀·桂萱	中島幸重郎				
城 南	森 村 伊勢雄				

(6) 蚕糸記念館の整備及び管理

明治45年国立原蚕種製造所として建てられた本館は、昭和56年に県指定重要文化財となり翌57年に蚕糸記念館として一般公開されています。毎年2万人を超える入館者が生糸の町の面影をしのんでいます。

(6) 文化財保護室(旧桂萱公民館)改修

年々増大する埋蔵文化財発掘調査によって集積した遺物を一括管理し、整理作業等の一元化を図るために改修工事を実施しました。



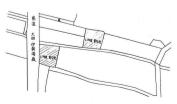


文化財保護室

(7) 国指定史跡「女堀」土地買い上げ

昭和58年10月27日付で国指定となった「女堀」の買い上げを実施しました。

① 昭和61年度買収地



女掘買収地位置図

昭和58年度	(東大室地区)	 3,380 m²	(指	定範囲	.Ø100%)
昭和59年度	(飯土井地区)	 3,500 m²	(IJ	Ø44.7%)
昭和60年度	(二之宮地区)	 290 m²-	7		
昭和61年度	(二之宮地区)	 379 m²	([]]	Ø28.4%)

昭和62年度(二之宮地区)予定 1,401 mi-

地区名	指定地面積①	買収面積②	官有地③	2+3	2+3/0
富田	2,816m	_	_		_
二之宮	7,287 m²	2,070 m²	4,562 m²	6,632 m²	91.0%
飯土井	7,819.41 m²	3,500m	_	_	44.7%
前工団	4,199.43m²	4,199.43㎡ 前工団所有	_	_	100%
東大室	3,380㎡	3,380m	_	_	100%
二之宮 女堀沼	未指定 18,175㎡	_	18,175 m²	_	100%



国史跡女堀 (飯土井地区)

2. 整 備 事 業

整備の性格として、現在の状態を保存維持するという管理的なものと、史跡や文化財を本来的な姿に復原するという形成的なものに区分したとすると、61年度で行った整備は管理的なものが主体でした。

史跡の整備においては、この2つのものは相補って効果を上げるのであり、どちらかに片寄っても十分ではありません。

史跡や文化財の整備というのは、我々の背後にある文化や歴史事象の多様性を表現するという点で、我々の生活空間を多様に豊かにするという作用を及ぼします。

交通・通信手段の進歩は、我々の生活空間の飛躍的拡大をもたらしましたが、それと同様に、時間的な拡大(複層化)について考えた場合、科学の新知見やSFなどは未来へ向けての時間の複層化をもたらしますが、歴史を扱う学問一般や史跡や文化財の整備は過去に向けての時

間の複層化をもたらすでしょう。この場合の時間的な拡大(複層化)とは、歴史 意識や歴史的想像力の形成といった精神 的なものです。

史跡や文化財の整備は、最終的には歴 史環境の形成を目差しています。歴史環 境というのは特定の歴史事象を一体的に 表現している空間で、人々がこの空間に 取り囲まれると、特定の歴史事象にかか わるある歴史的想像力(歴史感情)が換 起されるような空間です。

そして、京都や奈良のようなすでに歴 史環境が形成されている地域では管理的 な整備がより必要でしょうし、前橋のよ うな価値ある史跡がありながら歴史環境 にまで至っていない場合は形成的な整備 がより重要になるでしょう。

このような史跡整備により、日常的な生活空間がより複層化されれば、我々の生活・文化はより多様性に富んだ豊かなものとなり、前橋を築いたいにしえの人々の英知は我々を通して子孫に継承され、よき伝統として郷土の文化を形成する核

となるかもしれません。

次に、今年度実施した事業を紹介します。

標識・説明板の設置

標 識 臨江閣 (県史)、普蔵寺供養塔 (市重)、富田の宝塔(市重)

説明板 二宮赤城神社(県重・市重・ 市史他計5点一括を説明。)

案内板 下川淵地区の文化財めぐり案 内板を下川淵公民館に設置。



二宮赤城神社に設置された説明板

その他、予算化なされていなかつたが (仮称)総社地区歴史散歩道整備に関す る事前調査と検討を行ないました。

(中野和夫)

3. 総合調査事業

一年間を通して実施した調査について は、日、場所、内容を略記し、詳しい内 容は別項にゆずります。

4月12・13日 片貝神社大祭調査

4月17·18日 産泰神社祭礼調査

4月21·25日 下阿内町民具調査

5月2日 東照宮什宝調査

5月13日 上泉諏訪神社本殿彫刻調査

5月14日 東照宮什宝御神体調査

5月17日 上泉諏訪神社調査

6月3·9·10日 甲胄調査

6月13日 石造物調査端気小神明町

6月16日 天川大島町短刀調査 永明小甲冑調査

6月17日 天川大島町書画調査

6月24日 産泰神社本殿棟札調査

6月25日 永明小甲胄市女高土器調査

7月3日 祝昌寺弥勒菩薩調査

7月9日 昭和町聞き取り調査

7月21日 永明小甲胄調査

静御前の墓調査

7月24・25日 力丸の悪魔払い調査

7月26日 駒形の祇園調査

8月7日 民俗調査上細井町 他

8月8日 民俗調査日輪寺町 他

8月9日 民俗調査竜蔵寺町 他

8月10日 民俗調査川原町 他

8月21日 古銭調査 この調査は3月4 日まで15日間実施した。

8月26日 臨江閣他棟札調査

8月29日 民俗調査南橘地区

9月5日 南町民家調査

9月18日 石造物調査嶺町

9月24日 東照宮甲胄調査

10月8日 江田町鏡神社獅子舞調査

10月9日 南町民家調査

10月11日 竜蔵寺町民家調査

10月11・12日 前橋まつり調査

10月13日 石造物調査竜蔵寺町

10月16日 石造物調査小坂子勝沢嶺町

11月7日 民俗調査下川淵地区

富田の祇園囃子調査

11月21日 城東町製糸道具調査

石造物調査下細井北代田町

11月25・26・27日 民俗調査補充調査

12月4日 筑井町薬屋ちらし調査

12月9・10日 石造物調査関根町

12月12日 石造物調査竜蔵寺町

民俗調査川原町

12月13日 石造物調査青柳町

12月14日 亀里町矢島山車七観音調査

12月20日 民俗調査青柳町

12月30日 民俗調査房丸町

1月8日 東照宮能装束調査

1月9日 民俗調査下川淵地区 前橋初市調査

1月13日 民俗調査鶴光路町

1月19日 川曲町石橋調査

2月3日 青柳大師総社神社節分会調査

2月4日 泉沢町民家調査

2月6日 民俗調査下川淵地区

2月24日 西片貝町人形調査

2/1240 B/1940/7/2006

2月28日 昭和町岩神の飛石調査

3月1日 清里地区むしろ織り調査

3月4日 長昌寺五輪塔調査

3月5日 石造物調査東大室町

3月6日 民俗調査下川淵地区 以下略

4. 普及事 業

水と緑の自然に囲まれた前橋には、2 万年以上前から人々が住み始め、多くの 歴史的遺産(文化財)を今に伝えてきて いる。これら先人の残してきた遺産を保 護・管理することはもちろんであるが、 先人たちの知恵や丁夫を学びとってもら うために整備普及していくことも文化財 保護行政の重要な責務となっている。

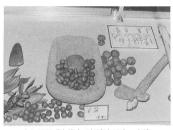
近年、余暇の有効活用、生涯学習の推 進が盛んに言われているが、文化財サイ ドでも、よりよい普及情報を提供してい くよう工夫していかねばならない。

第12回前橋市文化財展

昭和62年8月1日(金)~9月6日(土) 前橋市立図書館2階展示室 テーマ 『古代前橋人のくらし』 一古代人の知恵と工夫一 市では、市内各地で開発に伴う埋蔵文

化財の発掘調査を毎年実施している。

出土した遺物は、復元、実測され、報 告書に掲載されるが、収蔵庫へ収納され 利用される機会は極めて少ない。今回の 文化財展では、最近行われた発掘調査で 出土した土器や石器をジオラマ風に展示 し、物言わぬ遺物の一つ一つから先人の 知恵と丁夫を学びとってもらうことを目 的として開催した。また、文化財相談コ ーナーを設け期間中8回にわたり、係員 が見学者に対して説明を行った。期間中 小中学生を中心に約 2.000名程の見学者 が訪れ、特に土器に手を触れて分類する コーナー、粘土に縄文をつけるコーナー が好評であった。



文化財展「古代人の知恵と工夫」より

第5回文化財普及講座

昭和62年2月19日(水)

前橋市立図書館地下講堂

テーマ 『妙安寺とその寺宝』

昭和52年以来およそ十年の歳月をかけ て前橋市文化財調査委員故川田武麿氏を 中心に行われた妙安寺文化財調査は、61 年度の文化財報告書「妙安寺―谷川記録 ・寺宝」の刊行をもって終了した。今回 の普及講座は報告書の刊行を記念して行 われたもので60数名の受講者があった。

また、8月23日~12月6日までの間に 10回のシリーズで県民文化大学専門講座 「前橋のあゆみ」を県教委との共催事業 で実施した。受講者平均60名前後

普及講座・専門講座・講義内容とも紹 介の百を参照のこと。

教材開発事業 (スライド作成)

社会教育(学校教育を中心に)で活用 されることを目的とした歴史・文化財ス ライドを作成した。内容は、近代・現代 編で市に関係する歴史資料・文化財・人 物・記録等を撮映、62年度配布予定。

第14回前橋市郷土芸能大会

昭和61年11月15日(土)

前橋市民文化会館小ホール 前橋の伝統ある郷土芸能を広く市民に 公開し、保護・育成をはかり、市民文化 を向上させることを目的として開催。

出演団体

駒形太々神楽 敬神会(駒形)

二子山由来和讃 最善寺梅花講(東大室) 稲荷藤節・野郎万才 泉沢町郷土芸能保 存会 (泉沢)

上宿獅子舞 上宿獅子舞保存会(元総計) 紅雲町二丁目祭ばやし

紅雲町二丁目子ども育成会(紅雲二)

文化財愛護ポスターの作成

昭和60年度に実施した文化財愛護作品 コンクールのポスター部門最優秀作品を ポスター化し、文化財関係団体・所有者 等に配布した。

遺跡現地見学・史跡文化財めぐり

61年度中に社会教育課へ依頼があった 遺跡見学・史跡文化財めぐりの団体は30 を超えるほどであった。

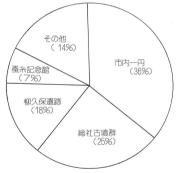


史跡・文化財めぐり(蛇穴山古墳)

見学団体の内訳は、一般が約40%、P TAを含む学校関係が約38%で、他は地 区公民館主催の高齢者教室等であった。

方面としては、市内一円が最も多く、 次いで国・県・市指定史跡の集中してい る元総社・総社地区、バラ園内にある蚕 糸記念館となっている。

時期としては、行楽シーズンの始まり である9月後半から10月、文化の日を中 心とした10月後半から11月前半に集中し



史跡・文化財めぐり方面別内訳

遺跡の見学

発掘現場の見学は、荒子町の柳久保遺 跡、小神明町の小神明遺跡で実施された。 柳久保遺跡では、市外の小学校(笠懸小 六年生186名・大胡小5年生200名他) か らも多数の見学があり、調査担当者、普 及担当者が対応した。また、7月末には 岩神小6年生による体験発掘もあり、文 化財普及に大きな効果を上げた。

その他

「広報まえばし」への執筆(14回)

II 昭和61年度文化財調査

1. 源英寺文化財調査

源英寺は、山号を柳原山と称し、児童遊園地の 北辺を東流する風呂川の北、大手町三丁目に在す る曹洞宗の寺である。

厩橋(前橋)藩初代藩主酒井重忠の葬儀を行つ た龍海院(酒井家の菩是寺で歴代藩主の墓がある) 興厳春隆和尚の隠居寺として二代藩主忠世によっ て源英寺は開基されている。龍海院とともに酒井 家とかかわりの深い寺で、市指定重要文化財であ る酒井重忠画像が口伝書並びに由来書とともに伝 えられている。 調査は、9月12日金に行われ、酒井公直筆と伝える柳原山の額をはじめとした什物類4点、雅楽頭源忠清よりの寺宛への書状他文書類23点の文化財が調査された。 (詳細は別表参照)

また、境内には、松平藩士の墓も多数あり、稲 葉隼人、白井宣左衛門、小河原左宮ら重臣の墓も 確認された。

源英寺古文書目録

整理番号	標題	年 次	宛 書	差 出 書
1	掟	天保6年孟冬		雙 林 寺
2	上野国群馬郡柳原門拾五石事(写)	明暦2年9月3日	源英寺	雅楽頭源忠清
3	書状(病気見舞い)	4月21日	龍海院玉潭和尚	大田伊兵衛 他2名
4	書状	25月21日	本多左門・松平左忠	雙林寺
5	隠 居 願	9月3日	隆興寺・源英寺	石原純助・鈴木左右太
6	n	同上	同上	中村誠蔵
7	年賀の祝い	正月11日	源英寺	永田 武
8		辛未3月	源英寺端園(15世)	姫路国御家杖 御家令
9		正月18日	源 英 寺	大橋・永田 武
10		明治元年12月13日		本多窓気楼・高須隼人
11	隠 居 願			
12	同 上	己5月23日	本多左門・松平左忠	雙 林 寺
13	(敷地、竹林、本堂のことなど)	寛延3年6月	御 役 所	源英寺
14	(検 地)	享和3年6月	関三ケ寺御役者中	源英寺
15	当山十六葉記之(6通8件)	明治6年10月		
16	上(境内の件、田畑、寺社など 4通)	明治4年11月	御支配・御役所	源英寺
17	龍海院 願につき諸状	6月29日	源英寺・隆興寺	(世話人3名連記)
18	什 物 記	明治7年5月	総代・生形八郎	源英寺住職 観瑞
19	奉願候畑地券之事(上野国群馬郡前代田村之内畑)	明治5年6月		
20	書状(脩庵院様の御法事の事)	7月15日		酒井現八郎 他3名
21	資財帳 (財産目録 Na13と同じ)			
22	授 与 状	寛政6年7月23日	観 音 寺	妙高庵 他4人
23	書 状(大名寄進状)	明暦2年9月3日	源 英 寺	雅楽頭源忠清

源 英 寺 什 物 目 録

整理番号	標題	年 次	備考
24	釈迦涅槃図(龍海院什物)	文政11年10月	
25	阿弥陀如来座像(本尊)		高13.5×巾10amほど
26	額(柳原山)		酒井公直筆と伝える
27	酒井重忠画像	元和2年5月	酒井重忠 筆 市指定重要文化財

2 東照宮文化財調査

東照宮は、大手町三丁目13番19号に鎮座する徳 川家康公を祭神として祀る神社である。

松平氏の前橋入封とともに城内に奉遷され、数 回の改築を経て現在に至っている。

昭和4年、村社から県社に昇格する際に、什宝 類等の調査が行われており、軍配、陣羽織、能面 及び能衣装、神楽面等、松平氏よりの拝領品その 他什宝類が確認されている。 今回の調査は、昭和60年度に行われた大興寺文化財調査に関連するもので(大興寺は1667年に松平氏によって創建され、城内における東照宮の別当寺として、松平氏の転封とともに諸国を移転している)左記松平家拝領の什宝類をはじめとして、木像東照宮座像、紙本著色菅公立像等の什物、文書等の文化財調査を行い、多大な成果を上げることができた。 (詳細は別表参照)

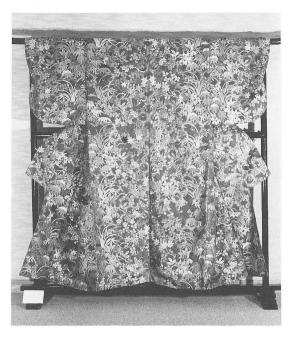
尚、松平家よりの拝領品、能装束一式、軍配、 陣羽織は、指定文化財候補物件となっている。

東照宮什宝・文書目録

28 軍 配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木製29 絵 画 紙本著色 菅公立像 松平 30 ル 紙本著色 東照宮坐像	考	宝物番号
マスの総地院糸亀甲下四季草花模様織出裏紅甲斐絹元禄袖)	織	2号
2	100	2-3
3	板	35
3 "(絹地亀甲形中花菱紋唐草模様織出裏白甲斐絹元禄袖) 4 "// 絹地竜網帯子模様裏白甲斐絹元禄袖 5 "// 絹珠子地ウロコ模様箔裏紅甲斐絹元禄袖 6 "/ 白絹珠子地茂全糸檜扇二紅葉刺繍裏紫甲斐絹元禄袖 7 "/ 白絹綾織地草花刺繍裏黄色甲斐絹元禄袖 8 "/ 白絹綾織地緑花菱箔裏紅甲斐絹元禄袖 9 "/ 白絹綾織地緑花菱箔裏紅甲斐絹元禄袖 10 "/ 甲斐絹地紅色地二白幡子裏組絹地元禄袖 11 "/ 白甲斐絹地三赤横橋裏白絹元禄柚 12 "/ 甲斐絹地黄青香子模様裏白絹地元禄柚 13 "/ 甲斐絹地黄胡香子模様裏白絹地元禄柚 14 "/ 網 白 地 大 15 能小道具 会尺吉寸赤胴作り金五三桐飾付柄紺糸目枝金上リ下リノ龍金 節 16 "/ 二尺八寸胴作リ柄紫糸目抜菊花 * 17 面 木 刻 6 点 点 18 面 木 刻 6 点 塩 19 能 道 具 黒漆金高巻絵 2点 2点 20 能 装 東 黒毛皮長サ三尺 黒 21 "/ 赤毛皮長サ三尺 黒 22 能 衣 装 麻 地 貴 色 "/ 水 23 "/ 麻 地 貴 長 "/ 麻 地 貴 長 24 "/ 麻 地 貴 長 "/ 麻 地 貴 25 "/ 麻 地 貴 "/ 森 地 貴 26 "/ 麻 地 貴 長 "/ 森 地 貴 27 "/ 麻 地 貴 長 "/ 本	····	
(絹10亀中形中化奏級 間早 保 様 1 表 1 表 1 表 1 表 1 表 2 点 ま 1 ま 2 点 ま 2 点 3 の	או	45
 5 ル 絹朱子地ウロコ模様落裏紅甲斐絹元禄袖 6 ル 白絹朱子地で宮葉形箔金糸檜扇二紅葉刺繍裏紫甲斐絹元禄袖 7 ル 白絹綾織地草花刺繍裏黄色甲斐絹元禄袖 8 ル 白絹朱子地市松形溶慰斗目模様刺繍裏紅甲斐絹元禄袖 9 ル 白絹綾織地綴花菱箔裏紅甲斐絹元禄袖 10 ル 甲斐絹地組色地二白橘子裏紺絹地元禄袖 11 ル 白甲斐絹地西赤横縞裏白絹元禄袖 12 ル 甲斐絹地黄青橘子模様裏白絹元禄袖 13 ル 甲斐絹地黄紺橘子模様裏白絹地元禄袖 14 ル 絹 白 地 15 能小道具 参尺壱寸赤胴作リ金五三桐飾付柄紺糸目枝金上リ下リノ龍金 16 ル 二尺八寸胴作リ板紫糸目抜菊花 17 面 木 刻 4 点 18 面 木 刻 6 点 19 能 道 具 黒漆金高巻絵 2点 20 能 装 東 黒毛皮長サ三尺 2 旅 衣 装 麻 地 黄色 2 が 麻 地 白 24 ル 麻 地 浅 黄 25 ル 麻 赤地竹模様浅黄染ー重 26 ル 麻地禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹 上・下 7 陣羽織(松平家から贈られたもの) 青に 28 軍 配(松平氏兼大利守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木斐 29 絵 面 紙本署色 賣紹宮坐像 		
6 の 白絹朱子地落葉形箔金糸檜扇二紅葉刺繍裏紫甲斐絹元禄袖 7 の 白絹綾織地草花刺繍裏黄色甲斐絹元禄袖 8 の 白絹綾織地綴花菱箔裏紅甲斐絹元禄袖 9 の 白絹綾織地綴花菱箔裏紅甲斐絹元禄袖 10 の 甲斐絹地組色地二白橘子裏紺絹地元禄袖 11 の 田斐絹地黄青橘子模様裏白絹元禄袖 12 の 甲斐絹地黄青橘子模様裏白絹元禄袖 13 の 甲斐絹地黄紺橘子模様裏白絹地元禄袖 14 の 嗣・妻絹・世野組満子模様裏白絹地元禄袖 14 の 絹 白 地 大 15 能が直具 参尺壱寸赤胴作り金五三桐飾付柄紺糸目枝金上リ下リノ能金 飾 16 の 二尺八寸胴作り柄紫糸目抜菊花 17 面 木 刻 4 点 態 銀 18 面 木 刻 6 点 狂 19 能道具 黒漆金高巻絵 2点 2点 20 能装束 黒毛皮長サ三尺 黒 21 の 赤毛皮長サ三尺 赤 22 能衣装束 黒色長長サ三尺 赤 23 の 麻地 ウ 本 24 の 麻地 地 大 支 本 25 の 麻地 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	JJ ·	5号
7	箔	6号
8)) ———————————————————————————————————	7号
9)) <u> </u>	8号
10	J)	9号
11))	10号
12	3 目	11号
13 ル 甲斐絹地黄紺構子模様裏白絹地元禄袖 14 ル 絹 白 地 大 15 能小道具 参尺壱寸赤胴作り金五三桐飾付柄紺糸目枝金上リ下リノ龍金 飾 16 ル 二尺八寸胴作り柄紫糸目抜菊花 17 面 木 刻 4 点 能 18 面 木 刻 6 点 狂 19 能 道 具 黒漆金高巻絵 2点 2点 20 能 装 束 黒毛皮長サ三尺 黒 21 ル 赤毛皮長サ三尺 赤 22 能 衣 装 麻 地 黄 色 水 23 ル 麻 地 浅 黄 上・下 24 ル 麻 地 浅 黄 上・下 25 ル 麻 地 禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹 上・下 下 26 ル 麻地禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹 上・下 下 27 陣別織(松平家から贈られたもの) 青に 28 重 配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木塁 29 絵 画 紙本著色 菅公立像 松平 30 ル 紙本著色 東照宮坐像))	12号
14 ル 絹 白 地 大 15 能小道具 参尺壱寸赤胴作リ金五三桐飾付柄紺糸目枝金上リ下リノ龍金 飾 16 ル 二尺八寸胴作リ柄紫糸目抜菊花 17 面 木 刻 4 点 能 18 面 木 刻 6 点 狂 19 能 道 具 黒漆金高巻絵 2点 20 能 装 束 黒毛皮長サ三尺 黒 21 ル 赤毛皮長サ三尺 赤 22 能 衣 装 麻 地 黄 色 水 23 ル 麻 地 浅 黄 25 ル 麻 地 浅 黄 26 ル 麻 地 禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹 上・下 下 27 陣羽織(松平家から贈られたもの) 青に 28 軍 配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木塁 29 絵 画 紙本著色 菅公立像 松平 30 ル 紙本著色 東照宮坐像))	13号
15 能小道具 参Rで表す赤胴作リ金五三桐飾付柄網糸目枝金上リ下リノ龍金 節 16	וו	14 号
16 ル 二尺八寸胴作リ柄紫糸目抜菊花 17 面 木 刻 4 点 能 18 面 木 刻 6 点 狂 19 能 道 具 黒漆金高巻絵 2点 2点 20 能 装 束 黒毛皮長サ三尺 黒 21 ル 赤毛皮長サ三尺 赤 22 能 衣 装 麻 地 黄 色 水 23 ル 麻 地 浅 黄 24 ル 麻 地 浅 黄 25 ル 麻 地 浸 サヤ 下 染 輸電 模様 裏 白 絹 上 ・ 下 下 26 ル 麻 地 禄 サヤ 下 染 輸電 模様 裏 白 絹 上 ・ 下 下 27 陣 羽織 (松 平 家 か ら 贈 ら れ た も の) 青に 28 軍 配 (松 平 氏 兼 大 和 守 源朝 臣 直 矩 、延宝 二 甲 寅歳 八 月 吉 勝 日 の 銘) 木 望 29 絵 画 紙本 著 色 菅 公 立 像 松 平 30 ル 紙本 著 色 東 照 宮 坐 像		15·16·17·18·19号
17 面 木刻4点 能 18 面 木刻6点 狂 19 能道具 黒漆金高巻絵 2点 20 能装束 黒毛皮長サ三尺 黒 21 川 赤毛皮長サ三尺 赤 22 能衣装 麻地黄色 水 23 川 麻地白 24 川 麻地浅黄 25 川 麻地付模様浅黄染一重 掛 26 川 麻地禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹上・下 下 27 陣羽織(松平家から贈られたもの) 背に 28 重配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木型 29 絵画紙本著色 管公立像 松平 30 川 紙本著色東照宮坐像	太刀	20号
18 面 木刻6点 狂 19 能道具 黒漆金高巻絵 2点 20 能装束 黒毛皮長サ三尺 黒 21 ル 赤毛皮長サ三尺 赤 22 能衣装 麻地黄色 水 23 ル 麻地白 24 ル 麻地浅黄 25 ル 麻赤地竹模様浅黄染一重 掛 26 ル 麻地禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹 上・下 下 27 陣別織(松平家から贈られたもの) 背に 28 軍配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木塁 29 絵画 紙本著色 管公立像 30 ル 紙本著色 東照宮坐像))	21号
19 能 道 具 黒漆金高巻絵 2点 20 能 装 束 黒毛皮長サ三尺 黒 21 // 赤毛皮長サ三尺 赤 22 能 衣 装 麻 地 黄 色 水 23 // 麻 地 白 水 24 // 麻 地 浅 黄 生 25 // 麻 赤地竹模様浅黄染一重 掛 26 // 麻 地禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹 上・下 下 27 // 陣羽織 (松平家から贈られたもの) 背に 28 // 軍 配 (松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木型 29 絵 画 紙本著色 管公立像 松平 30 // 紙本著色 東照宮坐像	面	22号
20 能装束 黒毛皮長サ三尺 黒 21	言面	22号
21 ル 赤毛皮長サ三尺 赤 22 能 衣 装 麻 地 黄 色 水 23 ル 麻 地 百 24 ル 麻 地 浅 黄 25 ル 麻 地 禄 サヤア・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	鼓	
22 能衣装 麻地黄色 水 23	頭	27号
23 ル 麻 地 白 24 ル 麻 地 浅 黄 25 ル 麻赤地竹模様浅黄染一重 掛 26 ル 麻地禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹 上・下 下 27 陣羽織(松平家から贈られたもの) 背に 28 軍 配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木型 29 絵 画 紙本著色 菅公立像 松平 30 ル 紙本著色 東照宮坐像	頭	28号
24 ル 麻 地 浅 黄 25 ル 麻赤地竹模様浅黄染一重 掛 26 ル 麻地禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹 上・下 下 27 陣羽織(松平家から贈られたもの) 背に 28 軍 配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木型 29 絵 画 紙本著色 菅公立像 30 ル 紙本著色 東照宮坐像	衣	29号
25))	30물
26 ル 麻地禄サヤ形染鶴亀模様裏白絹 上・下 下 27 陣羽織(松平家から贈られたもの) 背に 28 軍 配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木型 29 絵 画 紙本著色 菅公立像 松平 30 ル 紙本著色 東照宮坐像	IJ	31号
27 陣別織(松平家から贈られたもの) 背に 28 軍 配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木集 29 絵 画 紙本著色 管公立像 松平 30 川 紙本著色 東照宮坐像	素袍	32号
28 軍 配(松平氏兼大和守源朝臣直矩、延宝二甲寅歳八月吉勝日の銘) 木製 29 絵 画 紙本著色 菅公立像 松平 30 ル 紙本著色 東照宮坐像	垂	33号
29 絵 画 紙本著色 管公立像 松平 30 ル 紙本著色 東照宮坐像	2龍の丸文	台帳記載なし
30 ル 紙本著色 東照宮坐像	製・黒漆))
	済典奉納))
31 甲 胄 鋲綴桶側胴具足 前橋藩士	-))
	 ::木村孫市着用))
32 木 像 東照宮坐像))
	神社宮司差出	1)
34 ル 副書(ル)))

III 昭和61年度新指定物件の紹介

東照宮関係



名 称 前橋藩主松平家奉納能装束一式

所 在 地 前橋市大手町三丁目13番19号

管理者 東照宮

指定区分 前橋市指定重要文化財

記号番号 重 第53号

指定年月日 昭和62年6月24日

1.唐織1点 2.厚板3点 3.箔5点 4. 总斗自 4点 5.大口5点 6. X 表 3点 7.飾太刀2点 8.面10点 9.鼓2点 10. 黒頭1点 11. 赤頭1 点 12. 掛素約1点 13. 下垂1点 計13件39点

〈概要〉

この能装束が奉納された東照宮は、寛文12年 (1635) 6月6日、藩祖である越前大野城主松平 直基により創建された。奥州白河にあった享保20 年(1735)には、200石が寄進されている。

12回に及ぶ藩の転封に伴い、社殿の造営は7回を数えている。

現在の社殿は、嘉永7年(1854)川越城内清水門内にあったものを、明治4年4月23日、前橋城

覚方に再興したものである。

社殿の材木は、樹齢干年を越える一本のけやき の巨木から切り出されたという。

本殿の彫刻は、江戸の彫師、島村源蔵の作である。

明治維新に際し、朝敵の名をはばかり、御神体 を柿ノ宮村寿延寺に移し、社殿には天神社を再興 して祭った。

明治4年4月23日に合祀となって、旧に復している。

昭和3年8月10日付の東照宮宝物台帳によれば明治4年6月17日、12代の松平直方が、この能装束を寄進したと記されている。寄進状はない。

寄進の理由は明らかではないが、藩祖より崇敬 している神社であり、藩知事を免ぜられ、東京に 引き上げる際に、記念として寄進したものと伝え られている。

松平直方は前田家の出で、明治2年8月28日、 11代直克の養子となり、家督を相続している。

同年7月25日に前橋藩知事になっているが、明 治4年7月15日には、廃藩により知事を免ぜられ 伯爵に列せられた。

装束の内、主なものについて説明する。

①茶地亀甲文四季草花模様唐織

この唐織は、18世紀前半、享保年間ころの作品 で、能衣装が盛んに作られた頃のものである。

四季の草花は、萩、竹、梅、紅箸であり、四季の文様をつけることで、通年の使用ができるものである。

地色の茶は、鉄を使用し<u>焙</u>煎をしたもので、酸 化によりいたみやすいが、よく保存されている。

身丈 152cm、 裄74cm、 袖丈53cm

②薄茶白段竹亀甲に輪宝翼車模様厚板(三号)

茶縹色白段唐草に輪宝唐草模様厚板(四号)

この厚板も、18世紀前半、享保年間ころの作品







能面 (橋姫)



狂言面 (登髭一のぼりひげ)



狂言面 (乙一おと)

であり、保存状態は良い。唐織と同じく、松平直方の奉納品である。

台帳には、次のように記載されている。

(三号) 絹地錦糸亀甲中二紋織出壱幅文二竹文 様織出裏紫甲斐絹元禄袖

(四号) 絹地亀甲形中花菱紋唐草模様織出裏白 甲斐絹元禄袖

法量は以下の通りである。

(三号) 身丈 150cm、裄68cm、袖丈52cm

(四号) 身丈 150cm、裄70cm、袖丈55cm

3面

松平直方奉納の面10面は、能面4面、狂言面6面となっている。

能面は 顰(しかみ)、橋姫、大癋見(おおべし み)、鼻瘤悪尉(はなこぶあくじょう)である。

狂言面は、武悪(ぶあく)、登髭(のぼりひげ) 2面、乙(おと)、祖父(おおぢ)、嘘吹(うそふき)である。

これらの面は、江戸時代中期から、やや下った 時代のもので、正徳、享保の頃の作品をまねたも のである。 大きさは、ほぼ4寸×5寸で、江戸時代のものである。

10面の内4面は、名工出 首義助の作と台帳に伝えるが、出目家の正統にその名はなく、おそらく面打師としての格を高めるため自称したものだろう。

作品からみても、相当面を打つた人物であり素 人ではない。

面の基本的な形が決まった時代の作品で、表は 作者による違いはなく、現代でも使用できるもの である。

これらの能装束は、本市において数少ない能、 狂言の装束であり、藩主の所蔵であった点も貴重 である。

これらの調査にあたっては、装束、陣別織については、遠山記念館付属美術館長の山辺知行氏、面、軍配については、昭和女子大学教授の後藤淑氏に御助言をいただいた。



名 称 前橋藩主松平家軍配

所 在 地 前橋市大手町三丁目13番19号

管理者 前橋東照宮

指定区分 前橋市指定重要文化財

記号番号 重 第55号

指定年月日 昭和62年6月24日

法 量 長さ46㎝ 幅16.8㎝

〈概 要〉

武将の軍陣での指揮用具で、軍配団扇の略。

軍陣の配置、進退の日時・方角などを占って軍の来配をすることを「軍配」という。室町末期以降、戦陣での釆配を団扇で行うことが流行し、また、陰陽道の下筮・占星などの占いが戦術に影響を与えたことから、その表面に日月星辰の図などを軍配日取りの記号として記することが多くなり、軍配団扇と呼ばれるようになる。略して軍配となった。実戦用の武具として、羽は鉄・革・木、縁を金属で巻き、柄は鉄や木などが用いられる。

この軍配は、羽が木に朱の漆塗り金属で緑どり、 片面に松平直矩の名と延宝2(1674)年の年月と「 龍」の字、もう一面に陰陽道の占いに関すると思われる図があり、柄は木で漆塗り、朱色の組紐が付く。



名 称 前橋藩主松平家陣別織

所在地 前橋市大手町三丁目13番19号

管理者 前橋東照宮

指定区分 前橋市指定重要文化財

記号番号 重 第54号

指定年月日昭和62年6月24日

法 量 身丈100cm 裄28cm 前幅34cm

〈概要〉

陣羽織は、武士が合戦の時具足の上から着用した上衣で、具足羽織・陣胴服とも言われた。

室町時代中ごろ、機動力を要する戦闘法の変化 から具足が軽快なもの(当世真だ)となり、防寒 防雨や礼容を整えるために用いられるようになる。

初期は南蛮服の影響なども受け、形・装飾とも 多様であったが、江戸の平和な時代では戦陣用で はなく、儀仗用の形式的・装飾的なものとなった。

この陣羽織は18世紀(江戸時代中期)のもので、 地布の織は顕紋紗、地布紋は桜立涌紋である。

襟文様は茶地角竜文様銀蘭、縁取りは小石黒畳 文銀蘭である。背の龍の丸文は、ガラスの目に鉄 製の爪、火焰は赤羅紗と黒羅紗のアップリケどめ、 金糸の刺繍がある。 (中野和夫)

(中野和夫)

昭和61年度発掘調査事業の概要 IV

本年度の発掘をふりかえって

本年度の埋蔵文化財調査事業は、15遺跡16現場 の発掘調査・芳賀東部団地遺跡の整理事業・民間 開発に伴う年間60件に及ぶ埋蔵文化財確認調査事 業(表面調査50件・試掘調査22件・立ち合い調査 12件)であった。これらの埋蔵文化財調査は、年 々増加する傾向が見られ、本年度も昨年を大幅に (約150%増) 上回る件数であった。

調査の結果、市内各地の遺跡から前橋市の歴史 ・地域の歴史を解明する上で、貴重な資料を得る ことができた。中でも、元総社地区における3つ の遺跡(元総社明神遺跡V・寺田遺跡・閑泉明神 北遺跡) から検出された大溝は、古代上野国府に 関連する溝と考えられ、国府域を推定する上での 1つの手がかりとなった。また同地区の寺田遺跡 では、浅間(軽石(4世紀初頭)降下後の黒色泥 炭層より石田川式土器や鬼高式土器とともに多量 の木製品(幹・角帶・続・钄・積稿・杭など)が出

土した。おそらく、当時農工具として使われてい たものが、地中奥深く埋没し腐らずに残っていた と思われる。これは、昭和60年度に調査した元総 対明神遺跡IVで出土した木製品と同時期のものと 推定できる。さらに、赤城川南麓の荒子・荒口町 にまたがる柳久保遺跡では、昭和59年度から始ま った調査の3年次が終了し、3万㎡におよび舌状 台地全面の古墳時代から奈良平安時代にかけての 集落構成が判明できたことも特筆できる。

その外の遺跡の成果についても枚挙に暇はない が、紙面の関係上今後に残された課題を挙げて、 本年度のまとめといたしたい。

まず、毎年急速に開発が進む中で、文化財保護 と開発事業者への便宜を図るため、 本年度準備段階であった遺跡詳細 分布調査を早急に実施する必要が あろう。また、調査の迅速化が叫 ばれている最今、調査方法や整理 方法の改善を図り、能率よく無駄 を省いて調査する必要があろう。 昭和61年度埋蔵 さらに、発堀調査の結果得られ 文化財調査地分布図 た成果や資料を広く一般市民に紹 介し、文化財保護思想の高揚を図 0 57 ることが大切であろう。 4753 △ 17 **A** 4 発掘調査 40 O 29 O 59 O 赤城火川斜面 整理作業 試掘調査 0.31 表面調査 0.60 広瀬川低地帯 • 33 0 47 **▲** 2 0 66 前橋台地 (注)数字は右図の番号を示す -10-

発掘調査一覧

番号	遺跡名	遺跡コード	地 番	調査面積mi	調査原因	表面調査結果	試掘調 査結果	本調査期間・備考
1	柳 久 保 遺 跡 群 (柳久保・頭無)	61E 2 · 5	荒子町柳久保·頭無1502 外	12,600	城南住宅団地造成	有	有	S61. 5. 2~61. 11. 20
2		61E2:6	荒子町柳久保·下鶴谷·中鶴谷1310 外	18,920	城南住宅団地造成	有	有	S61. 4. 4~61. 12. 20
3	元総社明神遺跡 V	61 A 15	元総社町2578-23 外	1,019	区画整理事業	有	有	S61. 5. 1~61. 11. 15
4	小神明遺跡群 V	6104	小神明町字合田631番地 外63筆	11,000	土地改良事業	有	有	S61. 6. 30~61. 10. 4
5	寺 田 遺 跡	61 A 14	元総社町100-10 外5筆	2,500	元総社保育所建設	有	有	S61. 5. 20~61. 10. 6
6	前山遺跡	61E8	泉沢町1256-1 外	22,000	前橋総合教育施設用地造成	有	有	S61. 7. 18~61. 9. 10
7	小 稲 荷 遺 跡	61E9	西大室町277-1 外16筆	11,583	城南北部工業団地L·P·G基地造成	有	有	S61. 8. 1~61. 11. 15
8	生 川 遺 跡	61H4	南町2-153-1 外3筆	800	マンション建設	有	有	S61. 4. 10~61. 6. 4
9	天 神 遺 跡	61 A 13	元総社町早道831 外5筆	1,600	店舗(スーバーマーケット)建設	有	有	S61. 4. 30~61. 6. 17
10	村 東 遺 跡	61 A 17	総社町総社1873-1 外2筆	1,000	スイミングスクール建設	有	有	S61. 10. 6~61. 11. 29
11	木ノ宮遺跡	61G4	広瀬町3-14-1·21	156	店舗(洋品販売店)建設	有	有	S61. 4. 30·5. 1
12	鎮守廻り遺跡	61G5	朝倉町3-30-5 外7筆	70	賃貸住宅建設	有	有	S61. 5. 22~61. 5. 29
13	神明東遺跡	61 A 18	元総社町字寺田5-1・6・7	480	マンション建設	有	有	S61. 10. 20~61. 10. 23
14	屋敷遺跡	61 A 20	元総社町2200	141	マンション建設	有	有	S61. 11. 12·13·21
15	勝呂遺跡	61 A 16	江田町279-1 外2筆	631	店舗(スーパーマーケット)建設	有	有	S61. 12. 1~61. 12. 13
16	西 堀 遺 跡	61B5	上細井町字西堀 264	144	送電線鉄塔建替	有	有	S62. 1. 13~62. 1. 19
17	芳賀東部団地遺跡		鳥取町・小坂子町・五代町	327,800	芳賀東部工業団地造成	有	有	\$61. 60. 7~52. 1. 8 \$552. 10~53. 1. 28 \$652. 0. 20~53. 20. 28 \$654. 20. 20 \$555. 4. 22~55. 11. 14
18			上細井町芦沼1743-1 外42筆	4,191	住宅団地造成	無		
19			上新田町字町田984-1 外	6;381	ゴルフ練習場建設	有	無	
20			小相木町村西555 外7筆	3,297	店舗(スーパーマーケット)建設	有	無	
21			青柳町字新屋敷前598-2	1,900	ビル 建設	有	無	
22	柿木II遺跡	62A2	高井町1-28-7 外	1,230	倉庫 建設	有	有	昭和62年度に発掘調査の予定
23			青柳町字八幡裏183-1	2,047	店舗(オートセンター)建設	有	無	
24			川原町字蛇原376-51・84	2,573	宅地分譲・マンション建設	無		
25	道下遺跡	61 E10	今井町字道下928-1·2	1,413	居宅及び作業所建設	有	有	覚書を取り交わし現状保存
26			駒形町字上流272-1 外2筆	2,130	宅 地 分 譲	無		
27			今井町979-1·980	1,888	歯科診療所併用住宅建設	無		
28			駒形町字下流345-1 外	18,685	宅 地 分 譲	無		
29			下小出町3-24-7・8	1,573	宅 地 分 譲	有		開発中止
30			青柳町字遠辻66-1 外	2,513	宅 地 分 譲	無		·
31			上小出町字庚申塚679	1,189	宅 地 分 譲	無		
32	大友屋敷遺跡	61 A 22	大友町3-9	555	ビル 建設		有	試掘調査で遺跡の概要がつかめた。
33			西大室町2515-3	324	墓地の移転		無	*
34			上泉町14-1 外2筆	1,119	店舗(レストラン)建設	有	無	
35			日吉町4-358-10	1,865	宅 地 分 譲	無		
36			駒形町字東流1508-1 外2筆	5,466	倉庫建設	無		
37			小屋原町	.58,055	教育施設建設	無		
38	道場遺跡	61 A 23	問屋町一丁目1-7	947	ビル 建設		有	試掘調査で遺跡の概要がつかめた。
39			昭和町3-344-1 外2筆	2,966	宅 地 分 譲	無		
40			上小出町989-4 外4筆	2,544	賃貸住宅建設	無		
41	閑泉明神北遺跡	61 A 19	総社町総社3588-3	314	賃貸住宅建設		有	試規調査で遺跡の概要がつかめた。
42			駒形町字増田境1471-4 外11筆	5,918	倉 庫 増 築	無		
43			元総社町小見の内1752	1,445	賃貸住宅建設	有		開発中止
44	南京安寺遺跡	61H-5	六供町1147−8~9・1148−2・3・5	1,988	変電所建設	有	有	試掘調査で遺跡の概要がつかめた。
45			泉沢町500番地 外14筆	3,219	净水場建設	有	無	

番号	遺	跡	名	遺跡コード	地番	調査面積mi	調 査 原 因	表面調査結果	試掘調 査結果	本調査期間・備考
46					元総社町字寺田54-4 外2筆	1,489	店舗(自動車販売店)建設	有	無	
47					南町3-126-1 外2筆	1,405	店舗(飲食店)建設	無		
48					新前橋町3-2 外	6,152	病 院 建 設	無		再 開 発
49			-		荒牧町598-2 外3筆	1,169	マンション建設	有	無	
50					天川大島町2-26-7 外	1,393	店舗(洋品店)建設	無		
51					元総社町字草作1443-1	64	送電線鉄塔建替	有	無	
52					上小出字赤城392 上小出字右堰229—5	1,971	賃貸住宅建設	無		
53					荒牧町616 外14筆	2,546	店舗(自動車販売店)建設	有	無	
54	天 神	II :	遺跡	61A13	元総社町923-63	674	店舗(飲食店)建設	有		覚書を取り交わし現状保存
55					小夜原町字下新田1764-2 駒形町字増田境1463-1	1,989	土地分譲及びマンション建設	無		
56					下石倉町33-7・8・18	1,143	事務所建築	無		
57	111 🖯	⊞ :	遺跡	6106	小坂子町字川臼田1330-1	5,836	農地の整地及び土採取	有		開発中止
58					小屋原町字堀合 ⁴³⁵ 443	1,455	洋ラン栽培温室建設	無		
59					青柳町字寺前126 外5筆	5,371	店舗(花木販売店)建設	無		
60					北代田町字道西432-1 外2筆	2,985	店舗(衣料品店)建設	無		
61	堰 越	ž 遣	跡	62 A 21	大友町3-2-4・5	2,708	店舗(スーバーマーケット)建設	有	有	昭和62年度に発掘調査の予定
62					元総社町31·30-2	1,682	宅 地 分 譲	有		開発中止
63					西片貝町3-380-1・2	1,945	工場(食品製造)建設	無		
64					高井町1-28-8 外5筆	3,127	倉 庫 増 築	有		昭和62年度に試掘調査の予定
65					荒牧町810-3 外4筆	1,634	店舗 建設	無		
66	80.				天川原町字東下17-1 外5筆	1,014	マンション建設	無		
67					千代田町1-1-20	7,304	宅 地 分 譲	無		



柳久保遺跡の竪穴住居と建物跡



事業名 城南住宅団地造成工事(前橋工業団地造成組合)

所 在 地 前橋市荒子町字柳久保

調査期間 昭和61年5月2日~昭和61年 12月19日(発掘調査)

担 当 者 関根吉晴·福田瑞穂

面 積 第11遺跡A 4,400㎡ 第11遺跡B 8,800㎡

合 計 13,200㎡

調査の経緯 昭和59年度から始まった発掘調査も3年目が終了して、来年度の調査を残すだけとなった。今年は昨年に引き続き、舌状台地の調査を行ない終了した。

立地 本遺跡は前橋市荒子町字諏訪、 荒口町字柳久保・頭無・大久保・下鶴谷 中鶴谷に所在し、市街地から東へ約8㎞ の位置にある。国道50号線を東に向い二 之宮十字路を北へ進むと市道大室10号線 と交わる。ここを左折してまもなく左手 に荒低中学校、右手に本遺跡群をみる。

ここは赤城山南麓末端の舌状台地上にあり、東側谷地に宮川、西側谷地に端部で宮川と合流する深つ掘りがある。

標高は上位中央部で 112m、末端部で

1.3mを測る。

旧石器時代 剝片を数点確認した。

縄文時代 黒色頁岩製有舌尖頭器 1 点 出土。草創期から前期にかけての包含層 から多数の石器と土器を出土し、陥とし 穴も10基検出した。

弥生時代 なし。

古墳時代 住居跡は、3つに分けると前期7軒、中期9軒、後期5軒となった。 その他、竪穴状遺構や土坑を検出。また9mを超える住居跡から滑石製の勾玉 5個を出土した。

奈良・平安時代 住居跡26軒と 350個 を超える柱穴を検出した。

(福田端穂)



下鶴谷遺跡全景



事業名 城南住宅団地造成工事(前橋工業団地造成組合)

所 在 地 前橋市荒子町柳久保・下鶴谷

・中鶴谷

調査期間 61年4月4日~61年12月25日 **担当者** 于田幸生・肥田順一・桐谷優

面 積 合計 22,953㎡

柳久保遺跡(第10地点)

720 m²

下鶴谷遺跡(第13地点)

720 m²

柳久保遺跡(第14地点) 11,000㎡

中鶴谷遺跡(第15地点)

3,700 m²

柳久保遺跡(第16地点)

333 m²

調査の経緯 本発掘調査は一昨年、昨年に続き3年目である。調査は第14遺跡・第13遺跡・第10遺跡・第16遺跡・第15遺跡の順で行なった。

立地 赤城山南麓の標高101~115mの 台地と谷地形により構成されている。

柳久保遺跡(第10遺跡)

先土器時代 ナイフ形石器1点。 縄文時代 土城1基。土器片・石器片 を少量検出。

古墳時代以降 土城2基。

下鶴谷遺跡(第13遺跡)

先土器時代 なし。

繩文時代 住居址6軒、土拡3基、集石2基を検出。遺物は早期から中期までの土器片、石器を検出。

古墳時代 土城1基。前期遺物出土。 奈良·平安時代 住居址7軒、炭窯7期を検出。他に時代不明の土城1基。 柳久保遺跡(第14遺跡)

先土器時代 縄文時代 弥生時代 な

古墳時代 なし。 平安時代以降 溝6条を検出。 中鶴谷遺跡(第15遺跡)

先土器時代 なし。

繩文時代 後期土器片少量検出。

弥生時代 確認されなかつた。

古墳時代 土師器片少量検出。

奈良・平安時代 住居址6軒、土城15 基、掘立柱建物址4棟、ビット約 160基 、井戸9基を検出。(千田幸生)



古墳時代環濠



事業名 前橋都市計画事業元総社(西部第三明神)地区土地区画整理事業(区画整理第一課)

所 在 地 前橋市元総社町2303番地の1 調査期間 61年5月1日~61年11月13日

担当者 原田和博・加部二生

面 積 816,3㎡

調査の経緯 区画整理第一課より、上記事業に伴う調査依頼があり、昭和56年以来埋蔵文化財の発掘調査が行われてきている。

立地 本年度調査地点は、元総社小学 校東に位置する牛池川東岸の台地縁辺部 である。南北 450mの範囲にフ本のトレ ンチ調査を行った。付近の台地上は古墳 〜平安期の住居址が密集しており、低地 の氾濫原からも生活の痕跡が確認された。

先土器時代 なし。

縄文時代 前期〜晩期に至る土器片が 確認されているが遺構は検出されなかつ た。諸磯 a、加曽利E、B、堀ノ内式土 器が検出されている。

弥生時代 溝から赤井戸式土器が1個 体検出されたが、古式土師器に伴うもの と思われる。遺構は検出されなかった。

古墳時代 前期4軒、後期25軒の住居

址が検出された。又、後期ではFA下の環濠を確認しており、大型高坏、古式須恵器等が出土した。前年度調査を含めて2軒がそれらに伴うと思われ、昨年の木杭列も近い時期である。北方のトレンチからは滑石の原石と製品が多数出土したが工房は検出されなかった。

奈良・平安時代 総数25軒の住居址が 重複して検出されたが、方向等の規格性 は認められなかった。昨年度国府の東隅 と報告した大溝の西方一町の地点で断面 逆台形の大溝が検出されたが、国府との 関連性は明らかでない。

中近世 昌楽寺南の東西溝を調査、14世紀代に比定され、八日市場城存続以前の掘削であった。これとは別の地点で八日市場城の東南隅を調査しており17世紀代の遺物を出土している。

(加部二生·原田和博)

4. 小神明遺跡群 V (答佈遺跡)



奈良時代の住居跡(H-I)

遺跡位置図(国土地理院・5万分の1・「前橋」)



事業名 昭和61年度小神明土地改良事業(土地改良課)

所 在 地 前橋市小神明町字合田631 外 63筆

調査期間 61年6月30日~10月4日

担当者 桑原 昭·新保一美

面 積 11.000 m²

調査の経緯 小神明地区では、昭和57年度から土地改良事業が実施され、それに伴い、埋蔵文化財の発掘調査が行われ、本年度はその5年次であり、最終年にあたる。

5月6日 土地改良区、土地改良課、

土地改良連合会、文化財保

護係で打ち合わせ。 5月12日 調査依頼がくる。

6月30日 発掘調査開始。

10月4日 発掘調査終了、整理に入る。

立地 本遺跡は、赤城火山斜面末端の 舌状台地上にあり、旧利根川左岸から北へ 800mほどのはつた標高130~140mの地点にある。そして、数本の小河川により開析されていて、既に、人為的とみなされる削平を受けている。周辺には、端 気遺跡群、芳賀団地遺跡、南田之口遺跡、 小油明遺跡群がある。

旧石器時代 なし。

縄文時代 無茎石鏃(2トレ)、加曽 利EorE4式深鉢胴部(F)、諸磯 a 式深鉢底部・胴部(Dトレ)、凹石(Dトレ溝)、黒曜石剝片3点(Dトレ拡張 部)等を検出。

弥生時代 なし。

古墳時代 手捏3点(F)、 頭体部(B トレ河川跡)、頭の検出により、付近或は、 上流に古墳の存在を予想。

奈良・平安時代 Dトレ溝から灰釉陶器・瓶肩部、土師坏(墨書土器含む)、須恵の坏・蓋・高台付城・盤・小壺など多数検出。H-1から、須恵の坏・高台付城・蓋など検出。床直の遺物と遺構のようすから、H-1は奈良時代、H-2はH-1より30年ほど古い。Dトレ溝は郷文~平安時代とそれぞれを判定。

中近世 蓋、燈明皿、寛永通宝等検出。 (桑原 昭・新保一美)

5 芳賀団地遺跡

事業名 前橋工業団地造成組合による、 工業及び住宅団地の造成

遺跡名	北部団地	西部団地	東部団地				
	嶺・勝沢	鳥取・小	鳥取・小				
所在地	小坂子	神明·五代	坂子·五代				
調査年度	48 · 49	48 · 49 50					
調査面積	3.6ha	2.5ha	32.78ha				
報告書	(V)巻	(Ⅳ)巻	Ⅰ·(Ⅱ)(Ⅲ)巻				
※()は未刊							

61年度事業 第II 巻刊行のための整理 作業第3年目(芳賀東部団地遺跡谷西分)

竪穴住居跡(305軒)60年度行われた 執筆委員による1/20平面図の点検の後、 61年度は、その図面から、規模や方位等 計測によっていろいろなデータを取り、 遺構観察表を作った。それと平行し、遺物が見つかった位置を平面図に記入。その1/80縮尺コピーと遺物実測図の1/4縮 尺コピー、及び土層説明を加えレイアウトして本文のスペースを決めた。120軒 分終了した9月下旬、執筆委員会を開き 上記データ表とレイアウトを執筆者に渡 し、原稿依頼の運びとなった。残り 185 軒分については、11月下旬に原稿依頼を 終了した。

据立建物跡(141棟) 担当者による図面点検を行わなかったので、データ表、レイアウト作成の後、原稿化のための資料持ち帰りの前に平面図の中の載せる必要のないビット等を除く作業を行なった。(2月中旬)

製鉄・鍛冶関係遺構(竪穴住居に伴うもの四軒、鍛冶遺跡(3か所)遺物選別、図面点検は、県埋文センター所長、井上唯雄氏に依頼し、8月中旬及び1月中旬に来室していただく。その後、図面を作成し2月下旬に、執筆者に原稿依頼済み。

なお、以上の遺構については、遺構平 面図、土層断面図、遺物実測図とも3月 下旬に墨入れ完了。

満状遺構(46条)、土師に関係する土坑(52基) これらの遺構についての原稿は、事務局の方で原稿化する。3月末日までに下図、データ表、土層説明終了。レイアウト、原稿化は来年度とする。

その他、全体図は個々の遺構の1/200 縮少コピーを元に下図のみ終了。でき上がりは1/600図とする予定。

執筆依頼した原稿は、61年度中に脱稿 される見込み。

62年度作業予定

- 1. 素原稿と図面を照合し、記号等の食い違いをなくす。
- 2. 図版をレイアウトに合わせ台紙に貼る。また写真図版作成。(遺物写真撮影、遺構写真選定は今年度終了。)
- 3.「まとめ」の原稿作成。文責は第 I 巻担当、唐沢保之氏、及び61・62年度、 芳賀東部整理担当者。内容は、a. 芳賀 東部遺跡の土器形態の変遷。(第 I 巻のものの肉付け。) b.aを基本として、竪穴住居跡の分布と変遷を辿る。またデータ表の各項目の統計的処理結果とaを比較してみる。c. 墨書土器の出土する竪穴住居とaの関係。

以上を62年度の前半に終了させ、印刷 校正に充分時間をかける。なお第Ⅲ巻に 係る芳賀東部団地遺跡の繩文遺構の遺物 接合、遺構図面整理を行う。(前原照子)



寺田遺跡全景



7. 前山遺跡

古墳時代の溝



事業名 前橋市立総社保育所移転

所在地 前橋市元総社町100番地の10

他

調査期間 61年6月1日~61年9月30日

担当者 福田紀雄・浜田博一(市・調 査団)・金子正人(スナガ環

境測設株式会社)

調査面積 687 m²

調査の経緯 前橋市都市計画事業西部第三明神地区土地区画整理事業の実施に伴う元総社保育所の移転に先がけ、埋蔵文化財の包蔵地であることから前橋市福祉事務所と協議を進めていたが昭和61年5月26日~8月31日迄の調査期間をもって施設の建設によって埋蔵文化財が破壊される恐れのある部分について、発掘調査することになった。

立地 寺田遺跡は利根川右岸に位置し 榛名山麓の緩やかな傾斜面を南北方向に 走る牛池川と滝川に狭まれた上野国府推 定地に隣接する。

先土器時代・縄文時代 なし。 弥生時代 浅間〇軽石は確認されたが、 遺構・遺物とも検出されなかった。 古墳時代 ○軽石降下後の黒色泥質土中より石田川式土器の甕の口縁部破片、胴部破片と多量の木製品(杵・田舟・椀・鋤・横槌・杭・加工木)その他瓢簞・胡桃・桃・葦等が検出され、この黒色泥質土層から鬼高期の坏・甕・壺等の土器と水路状の遺構の西側斜面には護岸用の木杭が確認された。中央部を僅かに凹ませた角材が並例に敷かれ、鋤の木部と自然石で先端を押える状態で検出された。

奈良・平安時代 東側に南北方向の溝 (巾4~5m)が検出された。この溝は 今回の区画整理以前使用されていた道路 の直下に位置する。河跡の砂層からは奈 良平安時代の杯・皿・高台付埦・羽釜・ 灰釉陶器・動物の骨歯等が多量に出土している。本遺跡の西側半分では浅間B軽 石の純層が見られる。

中・近世 水田耕作床土とB軽石層の 中間の褐色土層から北宋銭の元祐通宝と 寛永通宝が出土した。

(金子正人)

事 業 名 学校建設に伴う開発造成(前 橋工業団地組合)

所 在 地 前橋市泉沢町1256-1番地 他22筆

調査期間 確認調査 昭和61年6月2日 ~同年7月17日 本調査 昭和61年7月18日~ 同年9月10日

担 当 者 桐谷優・近江屋成陽・武部喜 充

面 積 確認調査 対象面積22,000㎡ の10% (22,000㎡) 本調査 7,400㎡

調査の経緯 学校建設に伴う開発行為に先だち、61年4月8日付で前橋工業団地組合より調査依頼を受ける。前橋市埋蔵文化財調査団受託事業として5月1日付で山武考古学研究所と委託契約を交わす。6月2日から確認調査、7月18日から本調査を開始し、9月10日に終了した。

立地 本遺跡は赤城山南麓に所在し、 市街地から東へ約 7.5kmの位置にあたる。 調査区は標高 123m前後のローム台地と 標高 115m前後の沖積地に立地する。 先土器時代 なし。

郷文時代 ローム台地部分全域に、前期の諸磯 a・b 式期の遺物包含層が確認された。また、この包含層中から掘込まれた土坂が7基検出された。

弥生時代 なし。

古墳時代 ローム台地上から重複した 2条の溝を検出した。両址とも南北方向に直線的に延びており、非常に綺麗に重なり合っている。いずれも断面は箱葉研を呈し、規模は深さが約 1.5m、上端幅が2.9~3.7mである。両址とも最下層にEPの二次堆積と磨滅した土師器と須恵器が認められた。溝の使用された年代については6世紀後半から7世紀後半までを推定した。また、周辺遺跡の発掘調査で両址が重複したまま 1.9kmも走行しているのが確認されている。

奈良・平安時代 沖積地から浅間B軽 石直下の溝が2条検出された。

中・近世 なし。

(武部喜充)



古墳(3号墳)



事業名 工業団地用地造成(LPG基

所在地 前橋市西大室町277-1番 他

調査期間 試掘調査 昭和61年8月1日~昭和61年8月26日 本調査昭和61年9月8日~昭和61年

11月15日

担当者 高橋正男・前原豊(市・調査 団)・新井順二・平田貴正(山 武考古学研究所)

面 積 本調査部分 8,900 m²

調査の経緯 工業団地用地造成に伴う 開発行為に先だち、昭和61年7月19日付 で前橋市工業団地造成組合より調査依頼 を受ける。調査主体に前橋市埋蔵文化財 発掘調査団がなり、調査業務を山武考古 学研究所が実施した。8月1日から試掘 調査、9月8日より本調査に入る。

立地 本遺跡は赤城山南麓の西大室町に位置する。周辺には東神沢川、桂川が流れており、開析谷が発達し複雑な地形となっている。南東には前・中・後の三二子古墳がある。

先土器時代 本遺跡中央部より頁岩製の尖頭器1点を検出。

縄文時代 前期の陥し穴と考えられる 土城2基を検出。包含層より前・中・後 期に属する土器片・石器を検出。

弥生時代 遺構なし。包含層より後期 に属する土器片1点を検出。

古墳時代 古墳5星を検出。他の遺構 (住居址、土城等)は検出されはい。出 土遺物は3号墳「荒砥村89号墳」で土器、 鉄器、人骨等が出土している。石室は、 共に安山岩を石材とする両袖形横穴石室 で7世紀代の所産と思われる。

奈良・平安時代 住居址は奈良時代の 所産と思われる3軒を検出。1軒は南カマド、他は共に東カマドを有し、出土遺物は少ない。

中・近世 遺構なし。

(新井順二)



古墳時代住居(カマド)



事業名 民間開発(マンション建設) 所在地 前橋市南町2丁目29番8号 調査期間 61年4月10日~61年5月31日 担当者 福田紀雄・浜田博一(市・調

> 団団)・金子正人(スナガ環 境測設株式会社)

調査の経緯 信澤建設工業の開発行為の実施計画に伴い発掘調査の依頼があり 試掘調査の結果、古墳時代~平安時代の住居11軒、溝2条、土塩1基が検出され、遺物も多数検出されたことから開発行為者と協議・調整をし昭和61年4月10日より発掘調査を実施することになった。

立地 生川遺跡は、前橋台地を貫流する利根川と風呂川に狭まれた地形にある。 利根川と岸の前橋台地上のこの地域は、 区画整理事業等による土木工事等で土器などが出土している。近年上越新幹線、 関越高速道路の建設に伴う数多くの水田址が発掘されており、この中には同時期と考えられるものもあろうかと思われる。

先土器時代 なし。 繩文時代 なし。 弥生時代 なし。

古墳時代 この時期の住居址が15軒確認された。石田川式土器の台付き甕を伴う住居と鬼高式土器を伴う住居が確認された。特殊遺物として土鈴6点が出土した。鬼高の住居の内3軒は長甕をカマドに利用していた。この3軒は遺存状況が比較的良かったが、他の住居は、工場の基礎工事により破壊が激しくブランですら確認出来ないものがあった。他に埴輪の破片3点と鉄製遺物が出土している。

奈良・平安時代 この時期の住居は9 軒確認されたが、古墳時代よりも更に遺 構面迄が浅い為、残存状態が悪く全体を 捉える事の出来ない住居が多い。遺物の 中で目立つのが羽釜である。他に灰釉陶 器の皿、城等の出土もしている。

中・近世 井戸が5ヶ所確認された。 その内東隅の井戸付近より元祐通宝1枚が出土した。

(金子正人)



奈良·平安時代住居跡



事業名 株式会社松清元総社店の新築 移転に伴う造成

所 在 地 前橋市元総社町早道831他 調査期間 確認調査 昭和61年11月12日

~11月14日

本調査 昭和61年5月1日~ 6月17日

担 当 者 福田紀雄、浜田博一(市・調 査団)、伊庭彰一、折原洋一 (川武考古学研究所)

面 積 1,600㎡

調査の継緯 株式会社松清元総社店の 新築移店計画に伴う造成行為に先だち、 前橋市教育委員会、株式会社松清本店、 建築企業で再三協議を行なう。

調査費の負担、調査時期、調査主体者 調査工程等について協議が成立し、5月 1日より本調査を開始する。

立地 本遺跡は国鉄上越線新前橋駅の 北西約 1.2kmの地点、利根川右岸榛名山 南東麓に位置する。榛名山南東麓は相馬 ケ原扇状地を形成し、その南東で平坦な 前橋台地へ移行する。前橋台地は前橋市 の南西部を占めており、本遺跡はこの前 橋台地上に立地する。標高は 113mである。

先土器時代 なし。 繩文時代 なし。 弥生時代 なし。 古墳時代 なし。

奈良・平安時代 竪穴住居址が32軒、 井戸址が3基、土地が13基検出された。

竪穴住居址は調査区の西側に集中して 分布する。平面形は長方形若しくは方形 を呈する。規模は東西 4.5m前後、南北 3.5m前後を計る。柱穴は無いものがほと んどである。カマドは東壁の中央南寄り に位置し、煙道は壁外へ伸びるものが多 い。遺物は土師器、須恵器、緑ゆう陶器、灰ゆう陶器、白滋、青滋、銅椀片や鉄製 品が多数出土している。本遺跡は上野国 府の推定地域内にあり、周辺には奈良・ 平安時代の遺跡が多く分布する。

(伊庭彰一・折原洋一)



奈良・平安時代住居 (カマド)

事業名 民間開発(温水プール建設)

所 在 地 前橋市総社町総社1877-1、 1878、1879番地

調査期間 61年10月6日~61年11月25日 **担当者** 高橋正男:前原豊(市:調査

同情にあい 削点 で (1)・ 間 団) 、金子正人 (スナガ環境 測設株式会社)

調査面積 1,000 m²

調査の経緯 開発事業者 大山芳孝氏 より開発計画に伴う試掘調査の依頼があり、調査の結果、奈良・平安時代集落跡及び包蔵地と判明した。このことから開発事業者と協議調整し、発掘調査を実施することとなった。

立地 村東遺跡は、前橋市街地の北西 3 km程の総社町総社(旧地名で群馬郡総社村大字大屋敷)に位置し、地形的には、榛名山東南麓に広がる扇状地の末端にあたり、天狗岩用水と八幡川に狭まれた緩い傾斜を示す徴高地上に立地する。周辺には、宝塔山古墳・蛇穴山古墳・総社二子山古墳、西側には山王廃寺があり、上野国分寺・国分尼寺跡がある。この地域が律令制下において、上野国の中枢部をなしていたことが窺われる。

先土器時代 なし

繩文時代 打製石斧2点、剝片数点 **弥生時代** なし

古墳時代 石田川式土器片と和泉期の 土城1 基、住居址3軒、当遺構は残存状 況が悪く、遺物の出土量も少ない。

奈良・平安時代 当遺跡の主体はこの時期であり、18軒の住居址が確認された。北東隅の住居からは多量の須恵器が出土した。掘によって切られた住居は、カマドの下から溝が確認された。砂岩を長方形に切ってカマドを築いた住居が3軒確認された。

中・近世 当遺跡中央部南よりに薬研掘が確認された。底の部分はさらに深さ中とも50㎝であった。遺物は布目瓦片1点と土師片2点が出土した。土層断面を見ると耕作土の下部から掘り込みが確認出来る。この事から堀の構築時期は中世後半以降と考えられる。

近世の遺構は確認されなかつた。

(金子正人)

12. 木グ宮遺跡



木ノ宮遺跡全景

ちんじゅめく いせき 13. **鎮守廻り遺跡**



鎮守廻り遺跡全景

事業名 民間開発(店舗建築)

所 在 地 前橋市広瀬町三丁目14-1

14 - 21

調査期間 表面調査 61年3月20日

試掘調査 61年4月15日 発掘調査 61年4月30日:

5月1日

担当者 高橋正男·桑原 昭·新保—

美・前原 豊

面 積 156㎡

調査の経緯 61年3月5日付けて前橋市宅地開発事前協議会から、個人より申請のあった宅地開発事前協議に対する意見書の提出依頼があった。踏査を実施した結果、本調査地は古墳時代から平安時代の遺跡地である可能性が極めて高いことが判明した。そのため、試掘調査を実施し、平安時代の土坑1基を確認することができた。そこで、事業者との協議の結果、教育委員会直営で発掘調査を実施することとなった。

立地 本遺跡が所在する前橋市広瀬町は前橋市街地である県庁付近から南東6kmの所にある。本遺跡は前橋台地上に立

地し北東には広瀬川低地帯が広がっており、比高3~5mの崖が発達している。この河岸崖は前橋台地を古利根川が侵食してできたもので、今でもこの崖下に広瀬川が流れている。本遺跡の標高は86mを測り北西から南西にかけてわずかな傾斜が見られる。

旧石器時代から弥生時代 なし。

古墳時代 文化財調査報告書第1集掲載のオトウカ山古墳の周堀を確認した。調査報告書によるとオトウカ山古墳は径30m、高さ3.5m余りの円墳と推定されている。墳丘の1/3は過去に削られ、残りを道路によって削平されており、周堀、埋葬施設、葺石は確認されていない。今回の調査で浅間B軽石が弧状に分布しており周堀を墳丘に接して6~8mと考えると一致する。この外、古墳時代後期鬼高Ⅲ式の杯形土器が1点出土した。古墳との関連の考えられる遺物である。

奈良時代 土坑2基、集石遺構1基が 検出された。1号土坑から須恵器2点が 出土した。

平安時代以降 なし。

(前原 豊)

事業名 民間開発(賃貸住宅建設) 所在地 前橋市朝倉町三丁目30-5~

7 • 27 • 29~32

調査期間 表面調査 61年4月24日試掘調査 61年5月8日

発掘調査 61年5月22日 ~5月29日

担当者 高橋正男・前原 豊

面 積 70㎡

調査の経緯 61年4月16日付けで前橋市宅地開発事前協議会から、個人より申請のあった宅地開発事前協議に対する意見書の提出依頼があった。表面調査を実施した結果、本調査地は古墳時代から平安時代の遺跡の可能性が極めて高い事が判明した。そこで試掘調査を実施し、平安時代の溝5条、住居址らしきものが確認された。そこで、事業者との協議の結果、市教育委員会直営で発掘調査をすることとなった。

立地 本遺跡が所在する朝倉町は、市街地である県庁付近から南東 3.7kmのところにある。遺跡の所在する地域は前橋台地上であり、標高93mを測り北西から

南東にわずかな傾斜がみられる。本地点の北側1kmには、前橋台地を旧利根川が侵食して形成した比高5~6mの河岸段丘崖が存在する。広瀬川右岸は、かって県内でも屈指の古墳密集地帯であった。しかし、その古墳群と重複して昭和30年後半から住宅地が造成されたため、数基の古墳を残して消滅している。

旧石器時代 なし。

縄文時代 多野山地産の結晶片岩で作出された打製石斧が出土。

弥生時代 なし。

古墳時代 石田川式、鬼高式土器の破 片が出土。

奈良・平安時代 土器片、砥石が出土。 中世 カワラケ、常滑系陶器が出土。

遺構として溝が5条、土坑1基、住居址にみられる貼り床状の遺構が検出された。遺物は繩文時代から中世に至る遺物が認められているが、遺構は平安時代から中世に至るあいだのものと考えられる。溝のうちW-1号溝とよんだものは幅4.5mを測る規模の大きなもので、本地域の開発に用いられた主要な幹線用水路と推定できる。

(前原 豊)

14. 神 明 東 遺 跡



神明東遺跡H-3号住居址全景



事業名 民間開発(マンション建設)

所 在 地 前橋市元総社町3714-3、3720

調査期間 表面調査 61年8月6日 試掘調査 61年8月20日

> 発掘調査 61年10月20日~23 日

担当者高橋正男・前原豊

面 積 480㎡

調査の経過 61年8月6日付けで本調査地のマンション建設に伴う埋蔵文化財表面調査依頼が事業者より提出された。現地調査をした結果、推定上野国府に近接することと昭和60年度実施の区画整理事業地内調査が隣接して行われていることから遺跡である可能性が高いことが判明した。そのため試掘調査を実施した結果、平安時代の住居址2軒、土坑1基、溝2条を確認することができた。

立地 本遺跡は現利根川を狭んで群馬県庁の対岸に位置し、県庁から西南西2.5 kmのところにある。遺跡は、県道前橋・安中線のすぐ北にあり、西に流れる牛池川と東をとおる主要地方道前橋・群馬・高崎線(産業道路)のほぼ中央に位置し

ている。また、遺跡の南 500mに国道17 号線が走っている。

遺跡の立地する地域は前橋台地であり、 北西から南東へ緩やかな傾斜のある微高 地であつたが、いまでは、区画整理が進 み、ほぼ平坦になっている。本遺跡の標 高は約 111mであり牛池川との比高は2 ~3mを測る。

旧石器時代~弥生時代 なし。

古墳時代 石田川式土器の台付甕が出

奈良時代 なし。

平安時代 住居址6軒、土坑6基、溝5条、竪穴状遺構1基が検出された。遺物は土器類の外、鞴の羽口、鉄滓、軒丸瓦が出土。軒丸瓦は国分二寺中間地域で出土したものと同范関係である。このことは、国分寺で使用された瓦と同一工人によって作られた瓦が国府に供給された傍証となる資料である。検出された遺構の所産時期であるが遺物から10世紀前半の時期と考えられる。Dー6号土坑は小鍛治遺構であり、さきの鞴等が出土した。

(前原 豊)



屋敷遺跡全景



事業名 民間開発(マンション建設) 所在地 前橋市元総社町2200

調査期間表面調査61年9月9日試掘調査61年10月25日発掘調査61年11月12・13・

21日

旦 **当 者** 高橋正男・前原 豊

141 m²

調査の経緯 61年9月9日付けで本調査地のマンション建設に伴う埋蔵文化財表面調査依頼が事業者より提出された。9月16日に現地踏査をした結果、本調査地は推定上野国府域(中世蒼海城)に入ることから遺跡地であることが判明した。そこで、試掘調査を実施することとなった。試掘調査の結果、平安時代住居址1軒、中世の井戸2基、蒼海城の堀1条を確認できた。

立地 本遺跡は利根川右岸に位置し、 群馬県庁から西3㎞のところにある。遺跡は、県道足門・前橋線に面し、西の関越自動車道新潟線と東に鎮座する総社神社のほぼ中央に位置する。また、遺跡の南には、国道17号線(高前バイバス)が 南西から北東に走り、その南東1kmに国 鉄新前橋駅がある。

遺跡は前橋台地の北西から南東にかけて緩やかな傾斜を持つ微高地状にある。西に榛名山水系の染谷川、東には牛池川が流れている。付近の標高は118mでこれらの河川との比高は3~5mを測る。

旧石器時代 なし。

縄文時代 中期勝坂式土器の破片が出 土。

弥生時代 なし。

古墳時代 鬼高II式期の住居址が1軒 検出された。この住居址からは滑石製の 臼玉が14個検出され、未調査部分にはな お、多数の滑石製品が埋もれていること と考えられる。

奈良時代 遺構の検出は無かつたが、 杯・甕の破片が出土した。

平安時代 10世紀代の住居址が4軒検出された。H-1・2号住居址の土器のなかにはカワラケを含むことからより後出的要素を持つものである。

中世 検出されたW-1号溝は中世蒼 海城の堀跡である。断面形は薬研堀であ り、上幅8m、深さ4mを測る。この外 に井戸跡が2基検出された。(前原 豊)



勝呂遺跡全景



事業名 民間開発(店舗建築)

所 在 地 前橋市江田町279-1、280、

297

調査期間 表面調査 61年5月16日

試掘調査 61年6月19日 発掘調査 61年12月1日

~12月11日

担 当 者 高橋正男·前原 豊

面 積 631 ㎡

調査の経緯 61年5月6日付けて本調査地の店舗開発に伴う埋蔵文化財表面調査依頼が、開発事業者から提出された。表面調査の結果、条里制の敷かれた地域であるため水田址の可能性が極めて高い事が判明した。その後試掘調査をした結果、浅間B軽石に覆われた平安時代の水田址を検出した。

立地 本遺跡は前橋市の南西端、前橋市役所から 3.5㎞のところにある。遺跡の西は高崎市との境界になっており、南は主要地方道前橋・高崎線に面している。遺跡は前橋台地上にあり、東方 150㎜には染谷川が南下している。付近の標高は102㎜で北西から南東にかけて緩やかに

傾斜している。

旧石器時代 なし。 縄文時代 なし。

弥生時代 なし。 古墳時代 なし。

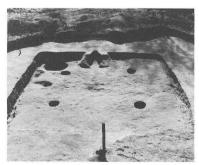
奈良・平安時代 調査の結果、『中右記』による天仁元年(1108年)浅間火山噴出の浅間8軽石により埋没した平安時代水田址が8面検出された。 畦畔の遺存状況は南側にいくにつれ良好であり、北側では判然としなかった。検出された水田址は方眼状をなし、東西に12m、南北に10m、東西がやや長い長方形をなし、面積 120m前後と小区画をなすものであった。

本地域の地形を細かく観察すると江田の集落が所在している面は微高地を形成しており、古代から居住域として利用されていたものと考えられる。水田址の調査としてはビニール中袋1個分の土器破片がみられたことはそういった事を示唆しているものとしてとらえられる。

北に検出された東西の大畦畔は条里制の遺制を残す点で重要である。

(前原 豊)

17. 西堀遺跡



西堀遺跡H-1号住居址全景

事 業 名 民間開発(東京電力送電線鉄 塔立て替え)

所 在 地 前橋市上細井町字西堀264 調査期間 表面調査 61年11月22日 立会調査 61年1月12日 発掘調査 61年1月12日 ~1月19日

担当者 高橋正男·前原 豊 **面** 積 144㎡

調査の経緯 61年11月18日付けて本調査地の片品川線送電線鉄塔立て替え工事に係る埋蔵文化財表面調査依頼が提出された。表面調査の結果、本調査地は遺跡地である可能性が高いことが判明した。そのため、基礎工事に先立って確認調査を実施したところ、調査地より古墳時代の竪穴住居址、縄文時代の土坑を確認した。

立地 本遺跡は市街地から北東へ4㎞離れた赤城山南麓に位置する。遺跡は、古利根川が形成した河岸段丘上にあり、遺跡の南 150㎞を北西から南東に走る県道今井・前橋線によって広瀬川低地帯(古利根川氾濫原) と区別される。遺跡の北

と東は、桑畑や畑地に利用されているが、西側は赤城火山斜面を南流する鎌倉川により開析され比高高差10mほどの崖になっている。一方南側は、広瀬川低地帯にひろがる水田を一望のもとに見渡すことができる。また、遺跡の標高は約128mを測り南100mのところには通称鎌倉坂と呼ばれる急坂がある。

旧石器時代 なし。

郷文時代 土層から繩文時代と考えられる土坑1基が検出された。この外に、早期の無紋土器・前期の諸磯a式土器やそれに伴う石器が出土した。この中で早期の無紋土器は胎土に結晶片岩粒を混入する特徴を持つものである。また、石器には北関東地域特有な『片刃形の石器』も認められた。

弥生時代 なし。

古墳時代 後期鬼高II式期住居址が3 軒検出された。3軒とも竈を南壁に持つ と考えられる。完掘できたH-1号住居 址は4.5mの正方形の整つたものである。 この住居址からは土器の外、土玉、赤色 顔料が認められた。この外に、前期石田 川式土器片2片出土があった。

奈良・平安時代以降 なし。(前原豊)

V 調査事業の成果から

1. 妙安寺文化財調査

昭和52年から足かけ10年の調査を経て、今年度 前橋市文化財調査報告書「妙安寺一谷山記録寺宝」 として刊行することができました。

そこで、この10年の調査をふりかえり、調査の まとめとしたいと思います。

妙安寺に本格的な調査の手が入ったのは、昭和 52年のことでした。

前橋市文化財調査委員の尾崎、中澤、松田、丸山、 山田先生により、古文書・記録・書画・什宝類の 悉皆調査を実施し、カード、目録作成写真撮影を 行ないました。

昭和52年度文化財調査報告書第8集から昭和57年度13集まで、筆録、縁起、一谷山記録の解読を報告してきました。

昭和58年度解読状況等を再検討した結果、現在の状況では今後数十年を要し、分散し資料的価値がなくなる。また什宝類について専門家の鑑定が必要であることから、妙安寺文化財調査委員会を組織することになりました。

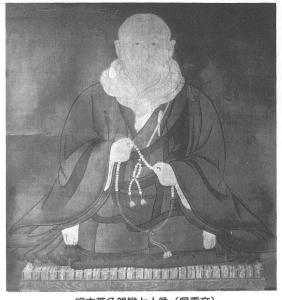
昭和58年9月に第1回の委員会が開かれ、今ま での調査結果の報告と、これからの調査について 協議がありました。

同年11月より、什宝類の再調査、東本願寺、大 谷大学図書館での調査を行いました。

昭和59年5月には、書画、什宝類について飯島 勇先生に見ていただき、指定に値するものとの鑑 定をいただきています。

その後、板倉町、茨城県 で 2 合妙安寺、 三村妙 安寺、川越市、浅草坂東報恩寺への調査をしてい ます。

同年12月から翌60年1月にかけて、葵紋幕について、大阪芸大吉岡教授・京都国博切畑室長により「辻ケ花染」ではないかとの見解で、東博今長氏、文化庁広井氏他で調査を実施しました。



絹本著色親鸞上人像(県重文)

この時は新聞、テレビで報じられました。

昭和60年には、書画・記録のうち9件12点が県 指定重要文化財に、9件45点が市指定重要文化財 に指定になっています。

これも、妙安寺調査の一つの成果といえます。 同年坂東報恩寺、大谷大学図書館、市内真宗寺院、 上越市での調査を行い、補充としています。

昭和61年に名号2件が市指定重要文化財に指定 となりました。

昭和61年度は報告書刊行の年度として、原稿集約、点検を行いました。

9月に印刷会社に入稿し、昭和62年1月に完成 し納品となりました。

400部を有償領布しましたが、好評のうちに完売 となり、50部を限りとして追加領布するほどにな りました。

この10年間の調査により、真宗大谷派の名刹として、一部の研究者には知られていた妙安寺について解明できたと共に、前橋市 群馬県の歴史解明は言うに及ばず、茨城県の歴史、宗教史の解明にも、いくぶんなりとの寄与ができたのではないかと考えています。



まだ城下町の雰囲気をいくらかは残す総社地区は、大渡橋により利根川を西に渡ったところにあります。散策に適した範囲に多くの史跡が点在しており、初めて訪れる人には、ちょっとした小旅行の気分になるかも知れません。

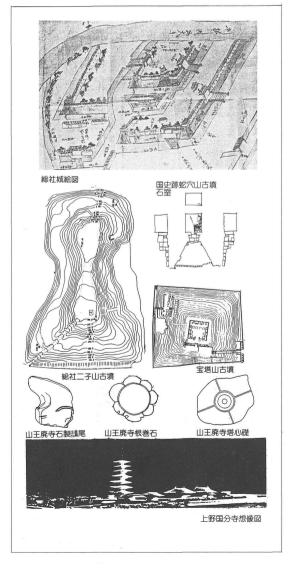
今、既存道路を利用した歴史散歩道が計画されており、その概要と総社地区全体の史跡とその整備構想(案)について、以下説明しょうと思います。

歴史散歩道の整備は62年度から3ヶ年で行い、 道しるべ(案内標示)約100基、説明板約15基の整備と歴史散歩マップ、歴史探訪ハンド・ブックの 作成が予定されています。

道しるべと説明板は総社の歴史と文化にふさわ しいデザインのものを、マップはビジュアルで見 やすいもの、そして、ハンド・ブックは史跡の他、 伝説、民話、民俗芸能、石仏なども取り上げ、来 訪者の興味関心に合った歴史探訪ができるものと したいと考えています。

先に16集では『前橋市歴史環境広域整備基本構想』の説明をしましたが、ここでは総社地区の整備構想(案)と史跡について説明しようと思います。ただし、これらの整備案は実現性はとりあえず保留し、総社地区の歴史的資産の活用と町おこしという観点により、どこまで構想しうるかの一提案ですので、ご承知おき下さい。

史跡の整備は、点より線・面と展開した方がよ



り一体的な歴史環境の形成が可能となり効果があります。総社地区は面的(その地区全体)な整備が構想可能な、市内でも数少い地区の一つです。

以下に述べる構想は、史跡の整備にあたっては 必ず、事前調査(発掘・測量他)と整備構想の検 討を行なうという前提に基づくものです。

①総社の町並み・景観の整備

左頁の図にあるように、総社の町は江戸の初め 城下町・宿場町として造られ、現在も町屋敷宿割 図のとおりの地割りが生きています。下の写真の ように町並みもその名残りをある程度とどめてい ます。この町並みに適した建物を保存・建替えを し江戸の城下町の情緒を再現したらどうでしょう。

②古墳を取り囲む公園の整備

この地区は古墳が多く左図を見ても国史跡3基他 2基の古墳があります。そして、図のように古墳の周辺をオープンスペースにし公園化すれば、史跡探訪の休憩地や自動車の駐車場、地元民の自由広場、環境保全などに活用できるはずです。

③総社城内の遠見山古墳の整備

遠見山古墳の周囲に総社城は築かれていました。 古墳は城の遠見の櫓の施設として利用されていた ことから、遠見山古墳の名称がつきました。古墳 とその周辺を整備し、遠見の櫓を模した施設を設 け、総社城関係の説明を付したらどうでしよう。

④上野国府・山王廃寺の調査と整備

この史跡は現在発掘調査中又は中断しており、 その全貌はまだ明らかではありません。上野国府は800 m四方、山王廃寺は200 m四方の規模を持つのではないかとも考えられており、いづれも群馬県の古代史上欠かせない史跡です。まず、綿密な調査を行い、その後の整備が待たれます。

⑤天狗岩用水の歴史・自然環境の保全と沿道整備

この用水は総社藩主秋元長朝が江戸時代の初め 農業用水として、また総社城を防御する掘として 開削したものです。難工事だったため天狗が現わ れ助力したとの伝説からこの名がつきました。

用水は利根川から取水していますが、総社の地盤が高いため地表より7~8mの深さに掘られており、現在でも難工事の様子がうかがえます。両岸にはアカシアの雑木林が生い繁り野鳥が飛びかうなど、地元に貴重な自然環境を提供しており、用水に沿った散策路の整備などが望まれます。

⑥コミュニティー・ミュージアム

町並みを形成するようなデザインで公民館など も兼ね、総社地区の歴史と文化を具体的に理解で きるような展示がなされた施設があれば良いでし よう。ここは、歴史散歩に来た来訪者のビジター センターでもあり、総社の民俗・郷土芸能・伝統 食等の生活文化の体験・学習など、地区の世代間 交流やコミュニティーの場でもあります。

この他にも総社地区には多くの史跡・文化財があります。秋元氏の菩提寺の光厳寺や元景寺、総社城大手門跡の粟島神宮や彫刻のすばらしい一本木稲荷などの寺社、また、道祖神や辻の地蔵尊、供養塔や庚申塔などの繋むい石造物、城下町にまつわる地名や屋号など、数えきれません。

さらにすばらしいことは『総社地区史跡愛好会』 という地区全戸加入の組織があることです。

このような歴史的資産と人的資源を持つ総社地区で歴史散歩道が整備されることになりました。

散歩道がきつかけとなり、点から線・面へと拡がり、この提案のどれか一つでも実現の方向へ歩み出すとしたらすばらしいことです。(中野和夫)



総社町の町並み

3. 総合調査事業

昭和61年度に実施した文化財調査について事業報告の中で略記していますが、ここでは、その内いくつかについて内容をお知らせします。

片貝神社大祭調査

昭和61年は12年に一度の大祭にあたっています。 祭は元禄二年(1689)から始まったといわれ、地元 では29回か30回になるといっています。

三社つまり、早虎稲荷・片貝神社・能満虚空蔵 尊(香集山能満寺玉蔵院)の改修の年になるそう です。牛と虎は虚空蔵の守り本尊であり、東片貝 が牛で、西片貝が虎であるといいます。

幼稚園児の稚児たちが、頭に牛と虎の顔をかい たかぶりものをつけて、手に手に花をもって、行 列していました。

12年に1度の大祭ということで、おねりが神社の西から、神社まで行なわれました。

御神木、役員、太刀、神主、太々神楽、太刀、 役員、太刀、稚児という順でねっています。

これに宮殿がつくものが完全な形で、この時は 遷宮祭ということになるそうです。

あねりはゆつくりと歩き、途中3~4回休み、 ふるまい西が出されます。

太刀は、辻々で、清めの塩を介添がまき、とな



片貝神社大祭のおねり

え言をしてから居合いを行ないます。 神社の境内でも、居合いをします。

太々神楽も、ずっと演奏しながらねってきます。 ひょっとこが、道筋の見物人をかまっています。

4月13日は、次の舞が奉納されました。1.大幣2.神招3.伊佐奈岐命伊佐奈美命4.天の岩戸5.種蒔の舞6.八幡大神7.両刀8.片扇9.釣場10.大蛇(おろち)このうち釣場は、恵比寿士、河童、副女、火男二人で、2時間以上かかると聞いていましたが、なかなかの熱演で3時間に及ぶものでした。

ここは、カエデの笛が有名ですが、今は梅の笛 を使っていて、よい音がするそうです。

甲胄調查

この一年で四領の甲冑を調査しています。調査 には、日本甲冑の会の高橋賢靖氏に指導していた だきました。

鉄黒漆塗桶側一枚胴具足

市内岩神町の佐藤光徳氏より寄贈に際して調査をしたものです。現在児童文化センターに展示しています。

江戸時代中期に造られた当世具足で、実用的な 造りをしています。作者、着用者等は不明ですが、 数百石程度の武士の着用したものです。

総高 139cmで、一部に後補と欠損があるが、全体によく保存されています。

横矧桶側胴具定

永明小学校に所蔵されているものです。

小振りですが、実用的に工夫がこらされたものです。兜には激戦の跡をみることができ、 治頻は 猿面と呼ばれるもので現存が少ないものです。

嘉永六年に補修した記録があり、貴重な資料です。

菱綴桶側胴胸取具足

これも永明小に所蔵されているものです。 保存が良く、一式そろつています。

兜は「朝診信家」の特徴を現わす特別注文のものです。当時「信家」の兜は武士のあこがれであり、所持することは名誉なことであったといわれ







永明小の甲胄

ています。

牧奥次兵衛は、市史等で調べると、百石取で勘定奉行・前橋町奉行をした武士です。中央公民館に展示の前橋陳屋の棟札に造営奉行の副司として名が出ています。

百石取の身分では徒士(槍持)一人を必要とし たので、もう一つの横矧桶側胴具足は、その徒士 の着用したものとも考えられます。

二領の甲冑は大正年間に下長磯町の栗原儀助氏 が、永明小に寄贈したものです。

鋲綴桶側胴具

この甲冑は東照宮所蔵のもので、前橋藩士木村 孫市が明治九年十月十七日に奉納したものです。

実用を考えしつかり造られ、全体の重量は18.8 kgとなっています。全体的にこぶりな甲冑で、前橋藩の百~百五十石取りの武士が着用したもので永明小所蔵の菱綴桶側胸取具足とともに、着用者とその身分が確認できる資料の一つです。

木村孫市は市史等によると百石~百五十石で組頭をつとめ、嘉永七年には、江戸高輪の一之台場 当番になっています。

また、孫市が居住していた多津塚(龍塚)は、 今の表町二丁目になりますが、明治七年に田中町 と改められた所にあたります。 ここには、前橋藩士の中堅(百石~二百石)の 士族屋敷がおかれていました。

古銭・磯部コレクションの調査

市内南町の磯部千代子氏から寄贈に際し調査したもので、現在市立図書館に保管されています。 コレクション収集の経緯について不明ですが、 大正から昭和頃のものと思われます。

全部で 1,730点からなり、5つの箱に収められています。

分類した結果は以下の通りです。なお中国銭は 時代別、日本銭については貨幣別になっています。

周	7	清	254	文久永宝	38
唐	32	越南	4	南部馬市	1
前蜀	1	安南	30	箱館通宝	1
王衍	1	絵銭(中国)	7	仙台通宝	3
南唐	8	不明(中国)	79	慶長通宝	2
遼	5	朝鮮	11	宝永通宝	1
北宋	440	小型銭	98	藩札	15
南宋	55	鳩目銭	33	絵銭(日本)	170
金	10	太平天国	1	古銭包紙	11
元	10	永楽通宝	3	私鋳銭	1
漢	6	寛永通宝	331	書状	1
明	54	天保通宝	4	不明	2

調査にあたっては、日銀貨幣博物館の小林博氏、 日本貨幣協会の松浦辰夫氏より指導を受けました。

清里地区むしろあみ調査

清里公民館で行なわれたむしろあみの様子を記録しました。



4. 普及講座

昭和61年度に行われた文化財普及のための講座は、次のとおりでした。

(1) 県民文化大学専門講座

県教育委員会との共催で、中央公民館を会場とし、8月23日は~12月6日はまでの3ヵ月半の間に計10回のシリーズで開講しました。講座は、「前橋のあゆみ」という主題で、市の歴史を通史的に学びました。各回とも平均60名前後の受講生があり、特に10月4日はに行われた公開講座には、市内外から約200名程の受講生が集まり大変盛況でした。各回とも県内の著名研究者が講義しましたが、それぞれの講師の持味が生かされ、受講生からは県都前橋の歴史をわかりやすく学べましたと好評でした。

講師と学習課題

	学習課題	講師	月日
1	上毛野氏の発展と古墳文化	糖果豬顏敛似脲 糖 用 別 重 昭	8月23日(土)
2	山王廃寺と上野国分寺	県立前橋第二高等学校教諭 松島栄治	9月6日(土)
3	女堀のなぞを探る	群馬県史編さん室専門員 能 登 健	9月13日(土)
4	動乱期の土豪たち	県立中之条高等学校教頭 唐沢定市	9月27日(土)
公開	鎌倉時代の上野武士	東京都立大学教授 峰 岸 純 夫	10月4日(出)
6	乱世に生きる 一中世の信仰—	群馬県史編さん委員 近 藤 義 雄	10月11日(土)
7	厩橋から前橋へ 一近世の領主たち―	群馬県史調査員 礒田市造	10月18日(土)
8	前橋町と商人たち	群馬県立文書館課長 阿久津 宗 二	10月25日(土)
9	周辺農村のあゆみ	. //	11月8日(土)
10	教育近代化のあゆみ	前橋市教育資料館長石 川 克 弥	12月6日(土)

以下に講義内容の概略を紹介します。

上毛野氏の発展と古墳文化 講師 梅沢 重昭

三世紀から四世紀にかけての群馬は、榛名山南麓と赤城山南麓といった山寄りの辺りを中心に弥生文化が栄えていました。

人々は、樗式土器(弥生土器の一種)等を用い 狭い谷地を利用した小規模な水田耕作を営んでい ました。一方、東毛地区などの平野ではまだ水田 は造られておらず、未開の空白地帯であったと思 われます。

その後古墳時代に入って、この空白地帯には石田川式土器を使用する人々が移住してきたと言われ、急速に開発が進みました。東毛の豊かな農業生産力を背景にして、古墳の造営も始まりました。とくに、太田天神山古墳のような大型の前方後円墳については、大和政権と結びつきのある豪族によるものと考えられます。土木技術や副葬品の馬具や水びよう等を見ると、大陸文化の強い影響を受けており、大豪族・上毛野氏の持つ外来文化を積極的に取り入れようとする姿勢が窺えます。

八世紀には古墳は寺院へと姿を変えて行きます。

山王廃寺と上野国分寺 講師 松島 栄治

大化改新後には、上毛野氏は中央の役人として活躍しました。国司による律令政治が栄える頃、上野国には国府があって、方六町の計画的な町となっていました。国府は、現在の明神様のあたりを東の境として設定されていたもようです。

また、国府の北西には国分寺と国分尼寺が有り、 山王廃寺以来の仏教文化の流れを受け継ぎ、豊か な仏教文化が花を咲かせていたようです。

鎌倉時代の上野武士 講師 峰岸 純夫

第5回目の公開講座は、峰岸先生に「鎌倉時代の上野武士」という演題でお願いした。平安時代末から鎌倉に幕府が開かれるまでの間の源平の争う時期に上野の武士たちは、どの様に動いたかを県史、山槐記、吾妻鏡等の資料を基に講義した。

治承4年(1180)京都で勃発した源頼政・以仁 王の乱に際して上野武士は、足利忠綱を大将とし て一族郎等が京に上り平家方として乱を鎮めた。

新田荘の地頭として力を持っていた新田義重は 当初平氏に服していたが、関東の情勢に変化が起 こると、平家を離反して源氏に服している。

上野西部には、信濃から源義仲が勢力を伸ばしてあり、これに服する武士団も見られた。

藤姓足利氏内では、寿永2年(1183)の関東の 雌雄を決する野木営合戦により分裂が生じ、親子 兄弟がそれぞれ独自の動きを示している。

源平二大勢力が争う中で上野武士は、その時々の情勢に敏感に反応し、一族でも各々の判断で動いている。その中で時流に巧みに対応した武士が生き残り、鎌倉幕府に地頭として用いられている。

厩橋から前橋へ 講師 礒田 市造

第7回の講義は、礒田先生によって行われ、ともに前橋藩主であった酒井氏と松平氏の治政の違いを落皆(狂歌などによる落書)等を交え考察した。両家の藩主としての在任期間の差を家系と病気の系統から探ってみたり、転封歴の多少から、(酒井氏3回、松平氏14回)政治力の差を考察してみたり興味深かった。酒井氏と松平氏の家系や人柄の違いが、それぞれ前橋の治政に及ぼした影響、近世幕藩体制の中でゆれ動く両家の運命等が熱っぱく講義され好評であった。

教育近代化のあゆみ 講師 石川 克弥

人間の高度な精神的働きから生まれてきた所産がいわゆる文化であり、それを次の者に伝えていくのが教育であるという論から始まり、古代から現代までの教育のあゆみを具体例をあげわかりやすく講義した。学という字の成りたちや、学校という言葉の起源、僧侶や貴族のためだけの教育、体制維持に利用された教育、庶民の寺子屋教育、前橋藩の藩校好古堂・求知堂、近代教育が必要であった理由、大正新教育運動、軍国主義の下での教育、戦後の民主主義教育とその問題点等が、写真パネルなどの資料をもとに講義され、受講生か

らは貴重な教育史の一端が伺えたと好評であった。

(2) 第5回文化財普及講座 62.2.19

昭和52年からおよそ10年の歳月を費して進められてきた妙安寺文化財調査は、61年度の調査報告書「妙安寺一谷山記録・寺宝」の刊行により終了しました。報告書の刊行を機に、より多くの方々に妙安寺の寺歴や寺宝類を紹介する目的で普及講座を開きました。講師には、飯島勇・近藤義雄の両先生を招き講義と寺宝類の紹介を行いました。

「親鸞・成然と妙安寺」 講師 近藤 義雄

尊卑分脈日野系図によると、浄土真宗開祖の親 警は源義親の娘の言光なと日野有範との間に生ま れたとある。また、妙安寺を開基した成然(九條 中村差望)は、源義親の娘と九條良賢の間に生ま れたとあり、両者は従弟の関係にあたる。親鸞は 専修念仏に帰依し勅勘を受け越後国分寺へ配流さ れる。幸実も勅勘を受け東国(下総国一ノ谷)へ 配流される。両者はやがて稲田において運命的な 出会をし、幸実は親鸞に帰依し、成然という法名 をたまわる。親鸞の上洛に際し自作の寿像を与え られ、妙安寺の寺号をもらい三村の地に妙安寺を 開基する。やがて成然は、覚如により関東二十四 輩の第六番の弟子とされる。妙安寺はその後酒井 重忠の要請により寿像・寺宝とともに川越・前橋 へと移っている。以上の様な内容を系図・聖人正 統記・門侶交名牒・覚信尼(親鸞の娘)の告知文、 妙安寺の古文書等を诵して講義をした。



近藤義雄先生



飯島 勇先生

「妙安寺とその寺宝」

飯島 勇氏

飯島先生には、専門である絵画類の紹介を、ス ライドを通して解説していただきました。

指定文化財一覧表

国指定重要文化財

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管理者	住 所	電 話
1	昭3.8.17	鉄造阿弥陀如来坐像	端気町337善勝寺			
2	" 28.11.24	上野国山王廃寺 塔心柱根巻石	総社町総社2408 日枝神社	群馬県	大手町一丁目 1-1	
3	" 40. 5 . 29	土 偶	台東区上野公園内 東京国立博物館		10	

国指定史跡

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管	理	者	住 所	電	話
1	大15.10.20	上野国分寺跡	元総社町・ 群馬町東国分	前群	橋馬	市町	大手町二丁目12-1 群馬町大字足門 1667-1		
2	昭2.4.8	(総社)二子山古墳	総社町植野字二子山368	前	橋	市	大手町二丁目 12-1		
3	"	前二子古墳	西大室町二子山	前	橋	市	"	,	1
4	n	中二子古墳	東大室町五料	前	橋	市	11	,	1
5	.11	後二子古墳 附小古墳	西大室町下諏訪	前	橋	市	"	,	1
6	昭2.6.14	(天川) 二子山古墳	文京町三丁目26	前	橋	市	n n	,	,
7	昭3.2.7	山王塔跡	総社町総社2408	前	橋	市	11	,	,
8	" 19.11.13	宝塔山古墳	総社町総社1606 光巌寺						
9	" 24.7.13	八幡山古墳	朝倉町四丁目	前	橋	市	大手町二丁目12- 1		
10	" 49.12.23	蛇穴山古墳	総社町総社1587 総社小前	前	橋	市	- n	1.	,
11	" 58.10.27	女 堀	東大室町、飯土井町、 二之宮町、富田町 赤堀町下触	前赤	橋堀	市町	# 赤堀町大字西久保 64-5	1.	,

国指定天然記念物

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管	理	者	住	所	電	話
1	昭13.12.14	岩神の飛石	昭和町三丁目29-11	前	橋	市	大手町二丁	目 12-1		

国認定(旧)重要美術品

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管 理 者	住 所	電 話
1	昭10.12.18	四神付飾土器	大手町二丁目3-6 前橋市中央公民館	前橋市	大手町二丁目 12-1	
2	昭11.11.28	石製鴟尾 一箇	総社町総社2398			
3	"	石製鴟尾残片 一箇	総社町総社2408 日枝神社			
4	昭18.10.1	後陽成天皇 宸翰古歌御色紙 一幅	千代田町三丁目3- 30 妙安寺			
5	"	後柏原天皇 宸翰朗詠詩歌 一幅	n,	"	"	n
6	n n	霊元天皇(詠松間紅葉和歌) 宸翰御懷紙 一幅	n n	"	n	11

県指定重要文化財

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管 理 者	住 所	電話
1	昭26.6.19	十一面観世音像	日輪寺町412日輪寺			
2	<i>"</i> 30. 1 .14	梵 鐘	千代田町三丁目 妙安寺			
3	" 34. 8 . 5	脇差 (銘喜翁藤原直胤)	城東町一丁目11-17			
4	11	刀 無銘(伝 元重)	小相木町150-2			
5	<i>"</i> 37. 2.21	刀 銘土佐藩工左行秀造之	"	11	n	"
6	# 38.9.27	太刀 銘備州長船実光	n,	n	11	"
7	"	上野総社神社本殿一棟	元総社町2377 総社神社			
8	n	短刀 (銘源左衛門尉信国) 一口	千代田町三丁目 15-10			
9	"	刀 (銘・備前国住長船五) 郎左衛門尉清光作	南町三丁目14-23			
10	"	刀 (銘・巴紋印 が東武藤枝太郎英義 作之	千代田町二丁目5~ 5	\$		

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管 理 者	住 所	電話
11	昭38.9.27	短刀 (銘・於東武藤枝) 英義造	石倉町316			
12	11	なぎなた 於東武英義作之	n n	11	"	"
13	昭49.12.23	納曾利面	二之宮町886 二宮赤城神社	二宮赤城神 社	二之宮町886	
14	"	総社神社懸仏 (二面)	元総社町2377 総社神社			
15	"	総社本上野国神名帳 (一巻)	n	n	n	n
16	昭51.5.7	総社神社雲版 (一面)	n	11	1)	n
17	" 53.10.13	旧アメリカンボード 宣教師館	岩神町二丁目3-5 共愛学園	共愛学園		
18	<i>"</i> 56.7.10	旧蚕糸試験場事務棟	敷島町262 敷島公園バラ園内	前橋市	大手町二丁目12- 1	
19	" 60 · 6 · 25	組本著色聖德太子孝養像 (六臣) 一幅	千代田町三丁目3-30 妙安寺			
20	11	網本著色聖德太子孝養像 一幅	"	"	"	11
21	11	網本著色親鸞上人旅姿御影 一幅	"	"	11	"
22	11	絹本著色親鸞成然両上人像 一幅	11	"	n	n
23	11	絹本著色親鸞上人像 一幅	n	11	"	11
24	11	絹本著色真宗七高祖像 一幅	и	n	n .	11
25	11	絹本著色成然上人像 一幅	"	"	n n	"
26	11	″	- (0):	"	11	11
27	"	" 一帽	11	11	"	"
28	"	網本著色親鸞上人縁起絵伝 四幅	11	"	"	"
29	n	中啓伝狩野山楽筆扇面画 一本	n	"	"	11
30	n	絹本著色九文人合作書画 一幅	n n	11 -	n .	"
31	<i>"</i> 61. 3 . 7	臨江閣本館茶室二棟付棟札 二枚	大手町三丁目15	前 橋 市	大手町二丁目 12-1	

県指定史跡

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管 理 者	住 所	電 話
1	昭25.6.15	力田遺愛碑	総社町総社1607 光巌寺			
2	" 26. 4.24	石田玄圭の墓	総社町高井一丁目 34-12			
3	" 26. 6.19	上泉郷蔵附上泉古文書	上泉町字宿1140		上泉町自治会	
4	" 45.12.22	前橋天神山古墳	広瀬町一丁目27-7	前 橋 市	大手町二丁目	

県指定重要無形民俗文化財

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管 理 者	住	所	電話
1	昭58.2.22	下長磯あやつり式三番付人形 3個	下長磯町281 稲荷神社	*)			

市指定重要文化財

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管理者	住 所	電話
1	昭39.12.22	文政四年天川原村分間絵図	文京町二丁目21-17			
2	"	文政四年前橋町絵図	文京町三丁目27-26			
3	n -	大德寺総門	小相木町91大徳寺			
4	11	廃覚動寺宝塔	公田町421乗明院			
5	"	カロウト山古墳石棺	三河町二丁目1-3 中川小学校校庭	中川小学校	三河町二丁目 1-3	
6	"	典籍前橋藩松平家記録	大手町二丁目12-9 市立図書館	前橋市	大手町二丁目 12-1	
7	"	書跡・豊臣秀吉和歌短冊	千代田町三丁目3-30 妙安寺			
8	昭60.3.27 県指定へ	工芸品中啓伝狩野山楽筆	H	"	11	"
9	昭45.2.10	笠薬師塔婆	問屋町四丁目3-4 稲荷神社境内	総社町史跡 愛 存 会	総社町総社 1596-1	
10	" 48. 9.24	松平藩主画像	朝日町四丁目29-24 孝顕寺			
11	"	結城政勝画像	II .	11	11	11

No.	指定年月日	指 定 物 件 名	所 在 地	管理者	住 所	電話
12	昭48.9.24	酒井重忠画像	大手町三丁目17-22 源英寺		大手町三丁目 17-22	
13	"	東福寺鰐口	三河町一丁目19-18 東福寺		三河町一丁目 19-18	
14	"	小島田の供養碑	小島田町大門跡530			
15	"	大徳寺多宝塔	小相木町91大徳寺		小相木町91	
16	"	阿弥陀三尊画像板碑	公田町421乗明院		公田町421	
17	" "	東覚寺層塔	総社町総社1607 光巌寺		総社町総社1607	
17 の2	昭49.8.26	日輪寺寛永の絵馬	日輪寺町412日輪寺		日輪寺町412	
18	11	産泰神社八稜鏡	下大屋町569 産泰神社	氏子総代		
19	昭50.12.24	慈照院千手観音坐像	二之宮町1811慈照院		二之宮町1811	
20	"	伯牙弾琴鏡	本町二丁目7-2 八幡宮		本町二丁目7-2	
21	"	光巌寺薬医門	総社町総社1607 光巌寺		総社町総社1607	
22	11	無量寿寺地蔵菩薩立像	二之宮町甲764 無量寿寺		二之宮町甲764	
23	"	無量寿寺十一面観音立像	II	11	n	"
24	n	二宮赤城神社梵鐘	二之宮町886 二宮赤城神社	二宮赤城神社	二之宮町886	
25	"	二宮赤城神社絵馬	II .	"	11	11
26	11	前橋藩刑場跡供養塔 ならびに道しるべ	天川大島町1025	前 橋 市	大手町二丁目 12-1	
27	"	宝禅寺異型板碑	上泉町1280宝禅寺		上泉町1280	
28	11	山王の宝塔	山王町464	11 9 10 1 100 1	山王町464	** ***
29	"	八幡宮文書一巻九通	本町二丁目7-2八幡宮		本町二丁目7-2	
30	"	前橋祇園祭礼絵巻二巻	大手町二丁目12-9 市立図書館	前橋市	大手町二丁目 12-1	
31	昭58.4.25	酒井家史料 126点	大手町二丁目12-9 市立図書館内	前橋市	大手町二丁目 12-1	
32	11	二宮赤城神社の宝塔	二之宮町886	二宮赤城神社	二之宮町886	
33	"	埴輪踊る男子像	勝沢町719芳賀小内	市立 芳賀小学校	勝沢町719	
34	" 59, 2.27	普蔵寺供養塔	東大室町甲6最善寺		東大室町甲6	
35	<i>"</i> 60 . 3 .27	一谷山記録 八冊	千代田町三丁目3-30 妙安寺		千代田町三丁目 3-30	
36	11	妙安寺筆録 一冊	"	"	"	11
37	11	妙安寺古系図 一巻 一谷山最頂院妙安寺縁起上	11	11	"	"
38	"	下二卷	· · ·	"	"	"
39	11	唯信鈔(伝親鸞筆)—冊	11	11	11	11
40	n	唯信鈔文意(伝成然筆)— 冊	H = +, ±	11	"	"
41	"	葵紋幕付本多佐渡守正信奉 書写	п	11	n	"
42	11	親鸞寿像遷座関係曹状28通	11	11	n	11
43	11	絹本著色蓮如上人像 一幅	後閑町383-3	"	"	- 11
44	"	円満寺薬師如来坐像 一体	円満寺		後閑町383-3	
45	"	円満寺石造阿弥陀三尊坐像 三体	" 円満寺 " 薬師堂	"	"	"
46	"	旧関根家住宅 一棟	飯土井町369-3	前 橋 市	大手町二丁目 12-1	
47	<i>"</i> 61.6.6	絹本著色九字名号 一幅	千代田町三丁目3-30 妙安寺		千代田町三丁目 3-30	
48	"	組本著色十字名号 一幅 第四条件	//		- 600	
49	//	富田の宝塔 一基	富田町33		上手町ーTロ	
50	"	臨江閣別館付棟札及び渡廊 下	大手町三丁目15	前 橋 市	大手町二丁目 12-1	
-		奈良三彩小壺付桧峯遺跡62				

市指定史跡

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管 理 者	住 所	電 話
1	昭39.12.22	前橋藩主酒井氏歴代墓地	紅雲町二丁目8-15 龍海院	£.	紅雲町二丁目 8-15	
2	11	前橋城車橋門跡	大手町二丁目5-3	前橋市	大手町二丁目 12-1	
3	昭45.2.10	新田塚古墳	上泉町新田塚2695			
4	昭48.9.24	経塚古墳	東善町経塚乙737			
5	"	オブ塚古墳	勝沢町420			
6	四49.8.26	下村善太郎の墓	知雲町二丁目8-15 龍海院			
7	" 54.3.26	亀塚山古墳	山王町一丁目28-3	前橋市	大手町二丁目 12-1	
8	11	本城氏の墓三基	紅雲町一丁目 9 - 14 長昌寺		紅雲町一丁目 9-14	
9	四56.4.27	秋元氏墓地	総社町植野150 元景寺	総社町植野150		
10	"	秋元氏歴代墓地	総社町総社1607 光巌寺	総社町総社1607		
11	11	今井神社古墳	今井町818	今井町自治会	今井町36-1	
12	" 58. 4.25	塩原塚古墳	田口町字千手堂 582-7			
13	<i>"</i> 59. 2.27	王山古墳	大渡町1-6-1	前橋市	大手町二丁目 12-1	
14	"	二宫赤城神社社地	二之宮町886	二宮赤城神社	二之宮町886	
15	<i>"</i> 61. 6 . 6	金冠塚古墳	山王町一丁目13-3	前橋市	大手町二丁目 12-1	

市指定重要無形文化財

No.	指定年月日	指定物件名	所 在 地	管 理 者	住 所	電話
1	昭48.9.24	総社神社太々神楽	元総社町2377 総社神社	196	元総社町2377	
2	n	野良犬獅子舞	清野町32-3 八幡神社			
3	n	産泰神社太々神楽	下大屋町569 産泰神社			
4	"	片貝神社太々神楽	西片貝町1460 片貝神社	* *		
5	昭49.8.26	泉沢の獅子舞	泉沢町44泉沢神社			
6	11	春日神社太々神楽	上佐鳥町1120-1 春日神社			
7	"	稲荷藤節	泉沢町672 泉沢町無形文化財 保存会			

市指定有形民俗文化財

No.	指定年月日	指定物件名	所在地	管理者	住 所	電話
1	昭45.2.10	上泉の獅子舞	上泉町935諏訪神社			
2	"	二之宮の式三番叟付伝授書	二之宮町886 二宮赤城神社			
3	昭57.4.26	駒形牛頭天王の獅子頭一対	駒形町710駒形神社			

① 指定区分別文化財 (62.3.31現在)

① 指定区分别关记的(02.0.0190元)								
区分	重要文化財	史	天然記念物	無形文化財	民俗文化財	旧美重術	合	
種別	化財	跡	念物	化財	化財	要品	計	
国指定	3	11	1	0	0	6	21	
県指定	31	4	0	1	0	0	36	
市指定	51	15	0	7	3	0	76	
合 計	85	30	1	8	3	6	133	

② 時代区分別文化財

1	指定別 件数	国指定	県指定	++6+	合	計
時代 別区	分	国指定	界 指正	市指定	件数	割合
天	然	1	0	0	1	0.8
原	始	1	0	0	1	0.8
古	代	14	2	15	31	23.3
中	世	3	20	22	45	33.8
近	世	2	11	35	48	36.0
近	代	0	3	4	7	5.3
合	計	21	36	76	133	100

前橋市の歌「赤城嶺に」の歌詞の三番に次のように高らかに歌われる部分がある。

上つ毛の国のまほろば花咲ける古き文化におうかがふるおらと青春の都市わがこの希望を前橋のあすの希望を声高くともに歌おう

上つ毛の国とは、とりもなおさず上毛野国のことであり、古代東国の中心地として高い文化を備え、栄えてきた群馬の地を指している。その国のまほろば、まほろばとは古語で、すぐれたよい所という意味で、上毛野国の中でも特に山紫水明で住み良い場所が前橋の地であったということを歌っているのである。この前橋の地に古き文化が花開き、先人の残した多くの文化財は、長い年月を経て現在まで大切に伝えられてきている。その古き輝かしき文化と現代の文化が共存し、調和して今まさに人生でいうなら青春時代にあるのが前橋市なのである。古都にありがちな古き文化に依存して生きていく都市ではなく、古き文化を大切にし、さらに進歩していこうという希望に満ちあふれた都市が、わがふるさと、わたしたちの前橋なのである。

さて、文化財保護行政というのは、先人の残した大切な文化財を受け継ぎ、 次の世代へ受け渡す仕事をになっているだけではない。先人の残した文化遺産 に接し、その知恵や工夫、情熱などを多くの人々に学びとってもらうために文 化財の公開やその他普及的な仕事も積極的に行わなければならないという責務 も負っている。今後も、さらに生涯学習等との関連を密にしながら、教育行政 の一環として市民のニーズに答えるべく、仕事の充実をはかっていかなければ ならないであろう。



山田武麿先生を偲んで

山田先生は大正3年12月11日に生まれ、昭和61年10月29日に没せられた。現在の平均寿命からすれば早きにすぎ、誠に残念であり、深く哀悼の意を表する。 先生の学生時代は昭和10年代であった。当時に於いても国際化の関心が高まったのであろう。歴史学界でも対外交渉史が研究テーマとなり、先生も大学卒論で〈キリシタンと商人〉の問題について検討された。

戦時中には兵役に入り、好むと好まざるとにかかわらず陸軍予備士官学校に 学び、卒業して甲幹の区隊長という関東軍経理学校教官になり、また大隊副官 という脚光あびる軍隊経験を送った。終戦後は群馬大学教授、教養部長となり、 続いて群馬県立女子大学教授となり、群大と女子大の両学の名誉教授になられ た。先生は陽のあたる道を歩んだ経歴のもち主と言うことができよう。

これらは先生の素質のなさしめたところであろう。テレビが街頭に現われた昭和30年から家庭に普及し始める時に、いち早く取入れた。新しいものを敏感に感じとっていた。先生の研究テーマは群馬県にとっても重要な問題を追求しておられた。これらは最初に解明せられなければならないものばかりである。養蚕製糸業という日本資本主義形成のトップ産業を究明し、商品流通を論じ、利根川水運について早い機会に注目して検討した。

先生の論文は必ずしも多くはない。しかし、才能のひらめきを感じとることができよう。前橋市史の近世史も先生の業績により明らかにすることができたものである。

前橋市文化財調查委員 丸山 知良

昭和61年度

前橋市教育委員会

社会教育課 課 長 米倉 忍

課長補佐 中嶋 隆二

文化財保護係 係 長 福田 紀雄

主 査 前原 照子

主 任 濱田 博一

主 任 遠藤 和夫

主 任 高橋 正男

主 任 井野 修二

主 任 前原 豊

主 任 桑原 昭

主 任 中野 和夫

主 事 中野 覚

主 事 関根 吉晴

主 事 福田 瑞穂

主 事 原田 和博

嘱 託 新保 一美

嘱 託 加部 二生

前橋市文化財調査委員

議長 山田 武麿

(昭和61年10月29日逝去)

中沢 右吾

丸山 知良

松島 栄治

梅沢 重昭

近藤 義雄

(昭和62年4月より)

昭和61年度 文化財調査報告書 第17集

昭和62年7月25日印刷

昭和62年7月31日発行

発 行 前橋市上泉町664-4

前橋市教育委員会文化財保護室

印刷 上毎印刷工業株式会社

